



CSR Report 2011

環境・社会活動レポート



株式会社 エフピコ



イントロダクション

簡易食品容器製造の現場

会長が語る

情熱の源泉

代表取締役会長兼最高経営責任者

小松安弘

食品容器業界とともに半世紀近くを過ごしてきた会長の小松安弘。その小松いわく、常に業界のトップをいくエフピコの躍進と成功の裏には、現在でも続くマーケットの“定点観測”と、単なる容器の製造販売とは一線を画す“ものづくり”へのこだわりがあった。機能、デザインから販売方法まで、製品のライフサイクルを視野に入れた研究開発やエフピコの将来を担う革命的製品“マルチFP”など、“付加価値創成”企業エフピコの実像について語る。

現場を定点観測

今でも、決算など特別なことがなければ、月に数回はスーパーマーケットなど現場の視察を行っています。実際に売場に足を運ぶと「こういう使い方がいいな」とか「これまでの容器に比べてここが変化しているな」と気づくことも多いです。私は50年近く食品容器を作っていますからみなさんとはちょっと見方が違うかもしれませんが、このような視察によって得られることは少なくありません。

例えば、今売れているのは機能性の高い容器です。中に入った寿司がずれにくい容器などですね。買い物の最中にカゴが揺れたりバッグに詰め直す時に商品が横になったりなどしても、中身の寿司の形状にフィットした容器で隙間がほとんどなければ、柔らかい寿司でも型崩れることがありません。密閉性を高くすることにより中身の汁が漏れにくくした容器も、高い機能性を持つ製品だと言えます。

業界全体のトレンドを見渡すだけでなく、販売の現場をこの目で見て、エフピコの製品として開発・販売すべきかを検討する。この見極めをするうえで「定点観測」は非常に重要なのです。

トータルな“ものづくり”

もちろんトレンドに沿った製品開発が悪いと言っている訳ではありません。消費者の目先を変えるという意味では良いのですが、それが長続きしなければ意味がありません。新しい特徴があると一定期間は売れる、でもそれが長期にわたって効果が出なければなりません。そのためには容器の機能、デザインから販売方法まで、トータルで考えながらものづくりをすることが不可欠なのです。

エフピコの歴史を振り返ってみると、日本経済の成長、国民平均所得の上昇、スーパーマーケットの店舗数増加など、外的な経済環境の変化により業績が伸びた時期があるのは確かです。しかしその後、市場へのトレー供給量が需要を満たす時代になり、今度は他社との差別化を図るようになりました。数の需要が満たされた後、質も考えたトータルなものづくりの必要性が生まれたわけですね。そして当社製品を使っただくこととお客様の売り上げ向上に繋がり、エフピコを評価いただいているのです。

たゆまぬ開発努力

製品が売れたら「消費者に受け入れられた」と手放しで喜ぶのではなく、自分たちが商売をするマーケットすらも変化させるものづくりを続けていくことが重要です。製品として優秀だからといって、長期にわたって同じ容器を作っていると、他社が同じタイプの製品を低価格で販売し、それによって対抗しよう





としてくるからです。一度の成功に安住するのではなく、次から次へと変化していかなければいけない。

つまり商品がよりきれいに並べられ、ボリュームがより多く見え、他社と比較して付加価値のある容器を継続的に開発、販売していくわけです。市場の動向だけを見て、「今これが売れているから開発しろ」というのでは長続きしない。ある程度売れたとしても先は見えていきますからね。次世代の製品開発を継続しなければなりません。

新製品ができれば最初は少量生産から始めて、その後徐々に生産量を上げることで、最終的にはエフピコの製品が主流となるよう我々自らマーケットに提案しています。

スピードという“カ”

食品容器の生産メーカーというのは、つまるところ容器を成形する“金型”に投資をしていると言っていいと思います。金型の償却というのは2年で終わります。3年目がその金型で製造した容器の販売のピークで、あとはそれを何年も使い続けることで利益を確保しようというのが通常です。しかし我々は4年目

には新しい金型に移行してしまう。そこが他社との決定的な違いだと思います。このスピードの差が、企業力の差として出てくるのです。



です。ですから類似品が出てきたとしても、我々は3年のサイクルで新しい付加価値を持った製品を発表し、マーケット自体をそちらに誘導していくため、必然的に類似品を出すメーカーが利益を上げにくい構造となっているのです。

“革命的”なマルチFP

変化の激しい昨今の市場を鑑みると今後の製品開発は大きな転換を強いられることになると思います。大震災による影響もあるかもしれません。それでも我々は、業界では圧倒的ともいえる技術力と情報量を財産として持つ会社です。

その意味で重要な役割を担う今後の主力製品のひとつに、マイナス40℃からプラス110℃までの幅広い範囲の温度域に対応できる“マルチFP”と名付けた新しい素材の容器があります。いま我々はこれに力を入れています。

ポリスチレンに特殊な原料を加えてシート状にしたもので、

付加価値を生み出す開発力を持つ 私たちのものづくりが揺らぐことはありません。

軽いばかりでなく高温、冷凍の双方に耐えられる機能を持っています。さらには発泡製品ですから断熱性にも優れているので、スーパーや量販店からの引き合いが増えています。私は50年近く発泡容器を見てきていますが、この製品は革命的だと思います。

またスクリュタイプ[®]の透明容器にも力を入れていきます。こんなすばらしい機能を持つ容器は新たな市場を生み出すでしょうから、時間の経過とともにさまざまな使われ方をすることになるでしょう。いまから5年もすると、こんな大量に出回っているんだと感心するような製品に成長していくと思います。

スクリュタイプに関しては、これを一生懸命売らなければいけないというような焦りはまったくありません。放っておいても後から市場がついてくるでしょう。将来的には、ヨーロッパやアメリカなどの諸外国にも技術輸出するようなことになるだろうと思います。

今後、重要性を増すマーケットとは？

今後のマーケットとして注視しているのは、病院給食、学校給食、高齢者向けの自宅ケータリングです。将来性、衛生面、コスト面を考えるとこれらの分野は非常に重要です。

ただ私たちがマーケットのニーズに合った良いプロダクトを開発製造する自負はありますが、実際にやるとなると、これまでにないさらなる大量生産を想定しなくてはなりません。日本全国で使われることになるわけですから、同じタイプの製品の製造ロットをものすごく大きくしなくてはなりません。そうなると生産ラインの現場でロボットのを借りる必要もでてくるのではないかと考えています。



1962年に創業したエフピコは間もなく、記念すべき50周年を迎えます。
人生になぞらえれば、さまざまな経験を積んで円熟期に入る年代に喩えることができるかもしれません。
目まぐるしく変化する現在の社会、経済状況のなか、エフピコにも大人としての対応が迫られています。

状況の変化に対応するだけでなく、社会の一員として積極的にその責任を果たしていくこと。
求められてから与えるのではなく、自らの判断と信念で働きかけていくこと。

企業市民としてのエフピコの考え方をこのCSRレポートでご理解いただければ幸いです。



編集方針

この「CSR Report 2011」は、エフピコの2010年4月から2011年3月までの環境および社会活動における取り組みをまとめたもので、以下の方針に沿って編集しています。

- エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。
- レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」を参考にしました。
- 対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日
- 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

CONTENTS

| | |
|------------------|---|
| イントロダクション「会長が語る」 | 1 |
| 目次／編集方針 | 5 |

会社概要 (P.7～P.14)

| | |
|-------------------------|----|
| 企業プロフィール/主要な経営指標 | 7 |
| 組織およびグループ会社紹介 | 9 |
| 製品紹介：日本の食文化を支えているエフピコ製品 | 11 |
| トピックス一覧 | 13 |

経営における取り組み (P.15～P.22)

| | |
|---------------------------------------|----|
| コーポレートガバナンス | 15 |
| コンプライアンスとリスク管理 | 17 |
| 対談：「外から見たエフピコの企業活動と グローバルな環境対策の流れ」 | 19 |

環境における取り組み (P.23～P.46)

| | |
|-------------------------------------|----|
| 環境方針/環境マネジメント体制 | 23 |
| トピックス | 25 |
| エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)の 環境目標策定 | 26 |
| 製品開発における取り組み | 27 |
| 工場における取り組み | 29 |
| 物流における取り組み | 31 |
| 販売活動における取り組み | 33 |
| オフィスにおける取り組み | 34 |
| エフピコ方式リサイクル | 35 |
| 工場見学の受け入れ | 44 |
| データで見る「環境における取り組み」 | 45 |

社会における取り組み (P.47～P.55)

| | |
|-----------|----|
| 株主とのかかわり | 49 |
| 消費者とのかかわり | 50 |
| お客様とのかかわり | 51 |
| 障がい者の雇用 | 53 |
| 社員とのかかわり | 55 |
| エフピコのあゆみ | 56 |
| 編集後記 | 58 |



会社概要

簡易食品容器の製造・販売を通して社会に貢献するとは
どういうことなのかをご説明します。

本社、営業所、生産工場、リサイクルセンターなど全国のどこで働いていても、社員一人ひとりがエフピコの顔であるという自覚と誇りを持つ会社でありたいと思っています。その思いを実現するためにも、笑顔でお客様をお迎えすることを実践しています。

株式会社エフピコ FP CORPORATION



- ★ 本社
- 営業拠点
- 生産工場
- リサイクル工場
- 選別センター
- 配送センター
- ピッキングセンター

東京本社管理部門の女性社員。ご来訪のお客様をいつでも笑顔でお迎えています。



ネットワーク

● 営業拠点

- 大阪支店
- 札幌営業所
- 仙台営業所
- 新潟営業所
- 静岡営業所
- 北陸営業所
- 名古屋営業所
- 広島営業所
- 四国営業所
- 福岡営業所

● 生産工場

- 北海道工場 (北海道石狩市)
- 東北工場 (宮城県大衡村)
- 山形工場 (山形県寒河江市)
- 関東工場 (茨城県八千代町)
- 関東下館工場 (茨城県筑西市)
- 関東つくば工場 (茨城県下妻市)
- 中部工場 (岐阜県輪之内町)
- 近畿亀岡工場 (京都府亀岡市)
- 福山工場 (広島県福山市)
- 笠岡工場 (岡山県笠岡市)
- 神辺工場 (広島県福山市)
- 四国工場 (高知県南国市)
- 九州工場 (佐賀県吉野ヶ里町)

● リサイクル工場

- 関東リサイクル工場 (茨城県八千代町)
- 中部リサイクル工場 (岐阜県輪之内町)
- 福山リサイクル工場 (広島県福山市)

● 選別センター

- 北海道選別センター (北海道石狩市)
- 山形選別センター (山形県寒河江市)
- 関東選別センター (茨城県八千代町)
- 東海選別センター (静岡県長泉町)
- 金沢選別センター (石川県金沢市)
- 中部選別センター (岐阜県輪之内町)
- 西宮選別センター (兵庫県西宮市)
- 福山選別センター (広島県福山市)
- 九州選別センター (佐賀県神埼市)

● 配送センター

- 北海道配送センター (北海道石狩市)
- 東北配送センター (山形県寒河江市)
- 東日本ハブセンター (茨城県八千代町)
- 東京配送センター (千葉県船橋市)
- 中部配送センター (岐阜県輪之内町)
- 関西配送センター (兵庫県西宮市)
- 福山配送センター (広島県福山市)
- 九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)

● ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
- 東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
- 関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
- 西関東ピッキングセンター (東京都町田市)
- 東京ピッキングセンター (東京都江東区)
- 新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
- 中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
- 関西ピッキングセンター (兵庫県西宮市)
- 福山ピッキングセンター (広島県福山市)
- 広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
- 九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)

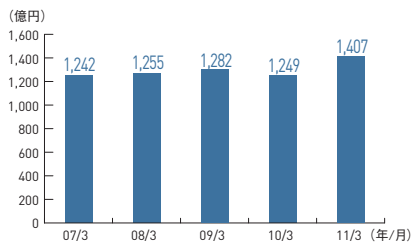
企業プロフィール

- 商号 株式会社エフピコ
- 設立 1962年(昭和37年)7月
- 代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者 小松安弘
代表取締役社長兼最高執行責任者 佐藤守正
- 資本金 13,150百万円
- 社員数 695名(エフピコグループ:3,666名)
- 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の
合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに
関連包装資材等の販売
- 本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号
TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー(総合受付36階)
TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

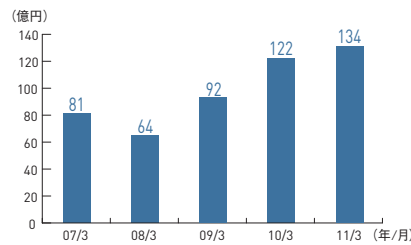


■ 主要な経営指標 ■

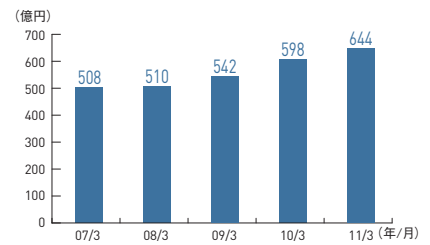
■ 売上高(連結)



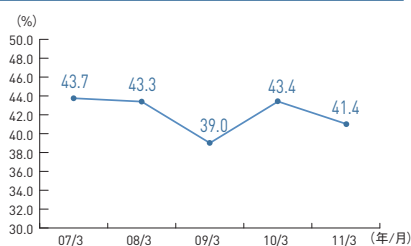
■ 経常利益(連結)



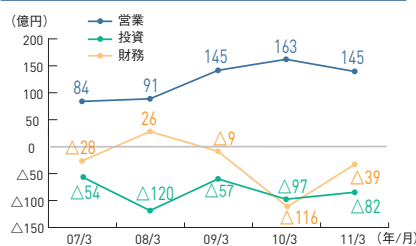
■ 純資産額(連結)



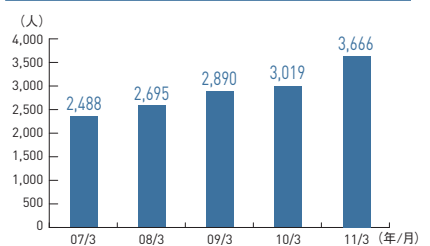
■ 自己資本比率(連結)



■ キャッシュフロー(連結)



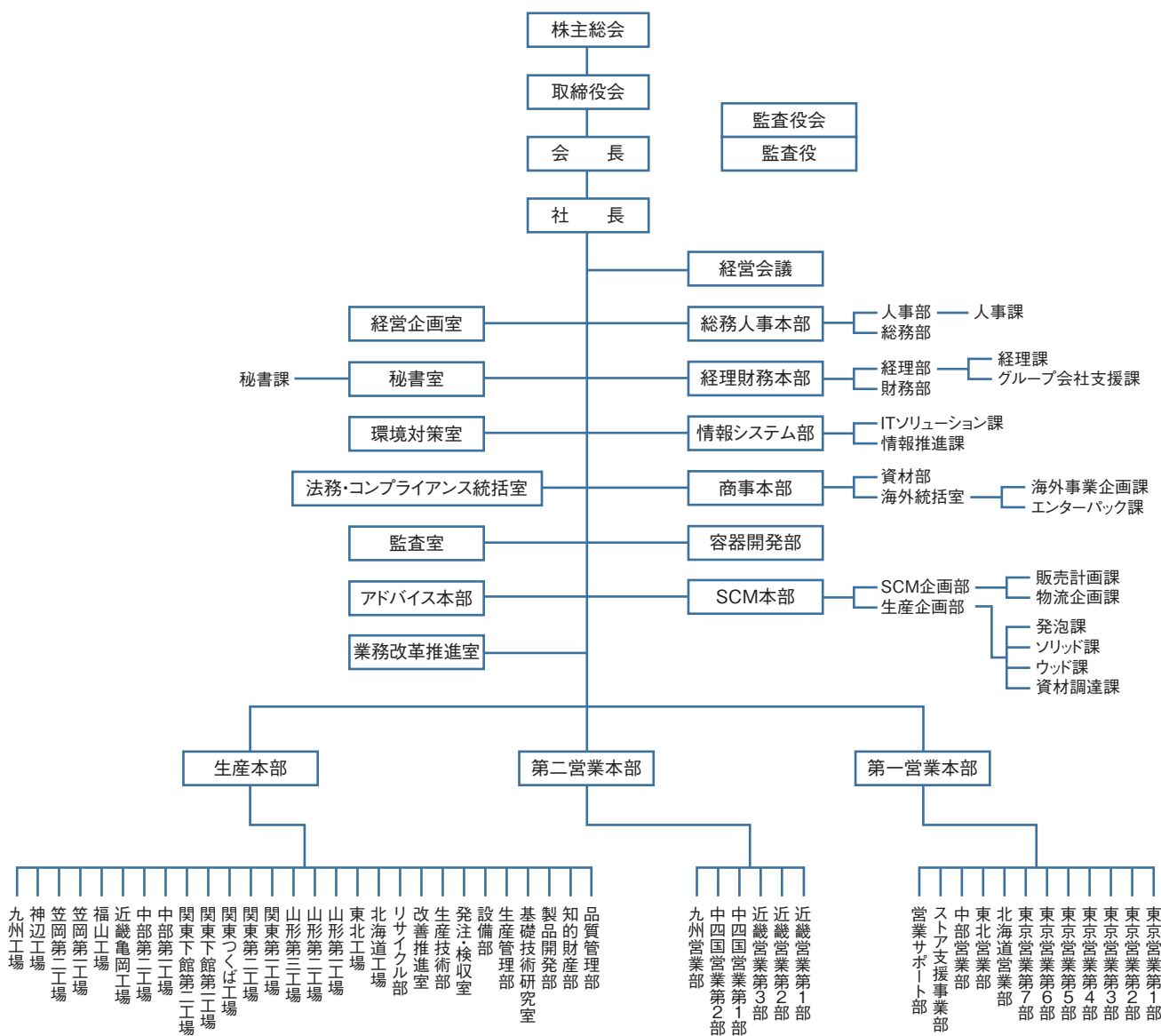
■ 従業員数(連結)



組織およびグループ会社紹介

組織およびグループ会社

※2011年4月1日現在



エフピコを サポートする グループ会社

■製造

- 株式会社エフピコ北海道
- 株式会社エフピコ仙台
- 株式会社エフピコ山形
- 株式会社エフピコ下館
- 株式会社エフピコ茨城
- 株式会社エフピコ中部
- 株式会社エフピコ箕島
- 株式会社エフピコ福山
- 株式会社エフピコ笠岡
- 株式会社エフピコ神辺
- 株式会社エフピコ佐賀

- 株式会社エフピコエンジニアリング
- 株式会社ダックス
- 株式会社ダックス四国
- 株式会社ダックス佐賀
- エフピコ愛パック株式会社
- 株式会社茨城ビジョンリサイクル
- テイカ精密株式会社
- エフピコ日本パール株式会社
- 株式会社アルライト
- ダイヤフーズ株式会社
- ジャパンハイパック株式会社

TOPICS 1

2010
6月



**新規グループ企業1：株式会社アルライト
ポリスチレンフィルムのトップメーカー**

アルライトは、岡山県笠岡市に本社を置き、フィルム事業、フィルム印刷事業、ダンボール事業を展開している企業です。フィルム事業およびフィルム印刷事業では、2010年3月より新たに茨城県に関東工場を開設し、より高品質かつ高効率な製品づくりと安定供給に努めています。またダンボール事業では、広島・岡山の2県を主な商圏とし、オーダーメイドの受注生産方式でお客様の多種多様なご要望にお応えしています。

TOPICS 2

2010
10月



**新規グループ企業2：インターパック株式会社
関東圏を中心とした大手包装資材問屋**

インターパックは、千葉県千葉市の本社を中心に、関東地区に6事業所、4市場売店と5か所の配送センター、ならびに近畿地区に1事業所、1配送センターを構えて、包装資材、消耗品の卸売業を展開する総合包材商社です。仕入先は2,000社以上あり、取り扱いアイテムも3万アイテムと多岐にわたります。地域に密着しながらお客様のニーズに迅速に対応し、付加価値の高い包装資材の提案、販売に努めています。

TOPICS 3

2010
12月



**新規グループ企業3：ダイヤフーズ株式会社
鶏卵パック業界2位、農産品・ポリ乳酸容器の生産**

ダイヤフーズは昭和38年に創業し、主力事業として鶏卵パック、農産物パック(マンゴー・イチゴ・ミニトマトなど)、豆腐容器、味噌容器、植物由来のポリ乳酸樹脂を使用した食品容器等の製造販売を行っています。また使用済みのペットボトルや鶏卵パック等の再生樹脂を中心層とした三層構造の鶏卵パックをシートから容器まで一貫生産するなど、資源の循環型リサイクルとCO₂排出量削減に努めています。

■物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・エクセル物流株式会社
- ・エフピコピッキング株式会社
- ・エフピコ中部物流株式会社
- ・エフピコ関東ピッキング株式会社
- ・エフピコ九州物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック

■商社

- ・エフピコ商事株式会社
- ・インターパック株式会社

■販売

- ・エフピコチューパ株式会社

■小売り

- ・株式会社エフピコモダンパック

■その他

- ・株式会社クックラボ

製品紹介：日本の食文化を支えているエフピコ製品

惣菜容器、弁当容器、小分け販売容器、汁物商品容器など、エフピコ製品は多岐にわたり、様々な食のシーンで消



精肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。



惣菜

蓋付の惣菜容器は利便性が高く、広く活用されています。近年では個食用として少量で販売するための容器も需要が高まり、食べ残しにならないという意味でも社会のニーズにマッチしています。



青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



オードブル

パーティーなど“ハレの日”用の食材を盛り合わせるために開発した容器です。大きさや形もさまざまで、用途によって使い分けていただけるようになっています。



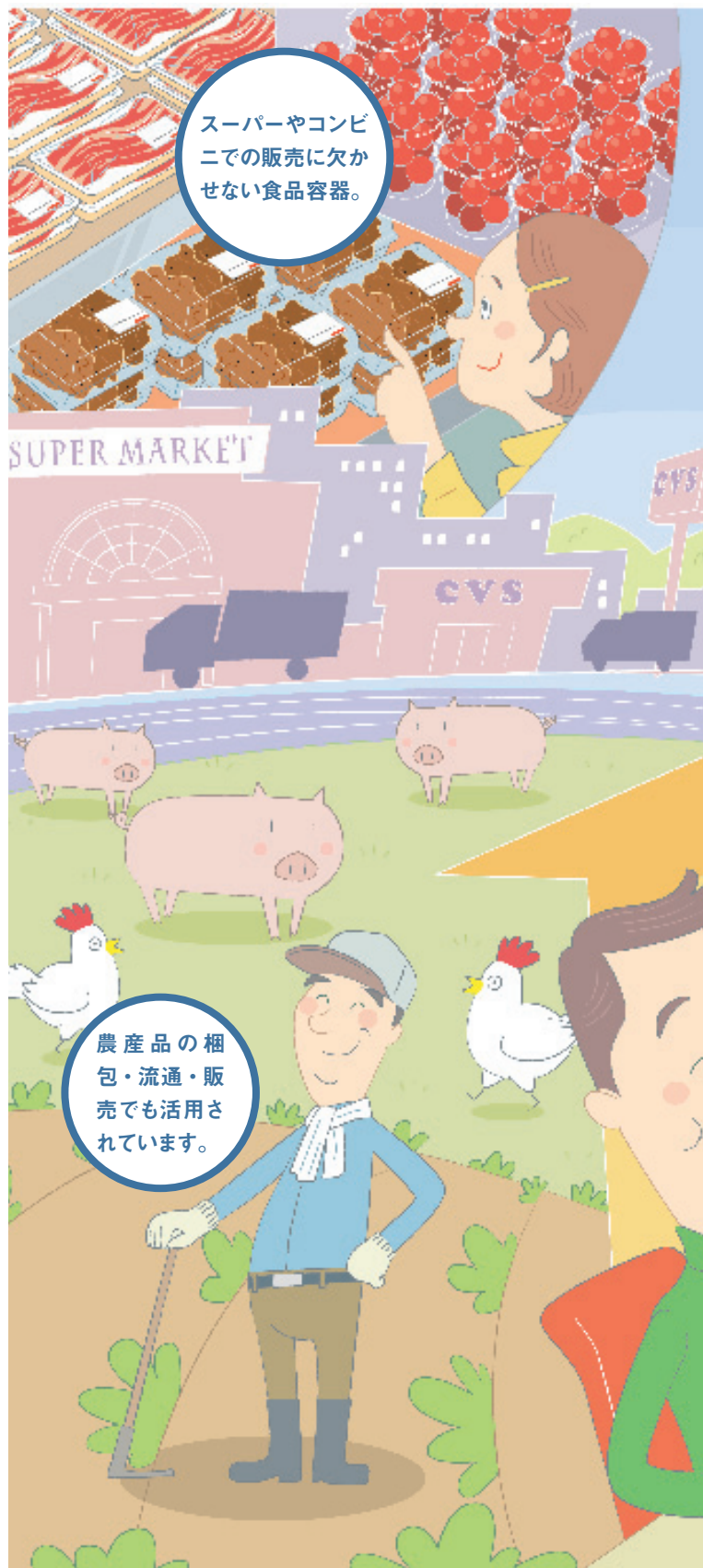
電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染み深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。



たまご

今年度よりたまごパックの生産も始めました。リサイクルにも対応していますので、皆さまの協力をお願いいたします。



費者の皆さまのお役に立っています。



鮮魚

鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた切り身などには透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



弁当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。



寿司

一人から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。



菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。



汁物

販売店での需要を受けて開発した水漏れしにくい容器。密閉性を高くすることにより水分の多い商品に対応できる工夫がしてあります。



スクリューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

トピックス一覧



2010
5月

フロアホッケー活動スタート

→ P53



2010
6月

2010年度「福山市男女共同
参画推進事業者表彰」受賞



2010
6月

新規グループ企業1:
株式会社アルライト
ポリスチレンフィルムのトップメーカー



2010
6月

アイ・ロジック福山ピッキング
センター開所

→ P32

2010年度
エフピコ
グループ
トピックス



2010
10月

新規グループ企業2:
インターパック株式会社
関東圏を中心とした大手包装資材問屋

→ P10



2010
10月

見学者累計30万人突破!

→ P44



P48



→ P53

2010
10月 山形選別センターオープン



→ P25

2010
12月 中部PETリサイクルプラント稼動開始



P10



→ P53

2010
10月 北海道選別センターオープン



→ P10

2010
12月 新規グループ企業3：
ダイヤフーズ株式会社
鶏卵パック業界2位、農産品・ポリ乳酸容器の生産



→ P25

2011
2月 エコマークアワード2010『金賞』受賞



→ P15

2011
2月 小松会長『第9回渋沢栄一賞』受賞



経営における取り組み

すべてのステークホルダーに信頼していただける企業であるための内部体制の整備についてご説明します。

経営における取り組みは結果が見えにくい活動かもしれません。組織を健全な状態に整え、効率良く機能する状態を維持していくことは、お医者さんが人の体の中を診断するようでもあり、手探りでしか行えないこともあります。そのためにも活発な意見交換や、第三者の客観的な視点を取り入れることが大切になります。

見えにくいものを見えるようにすることも、経営における取り組みの一部です。



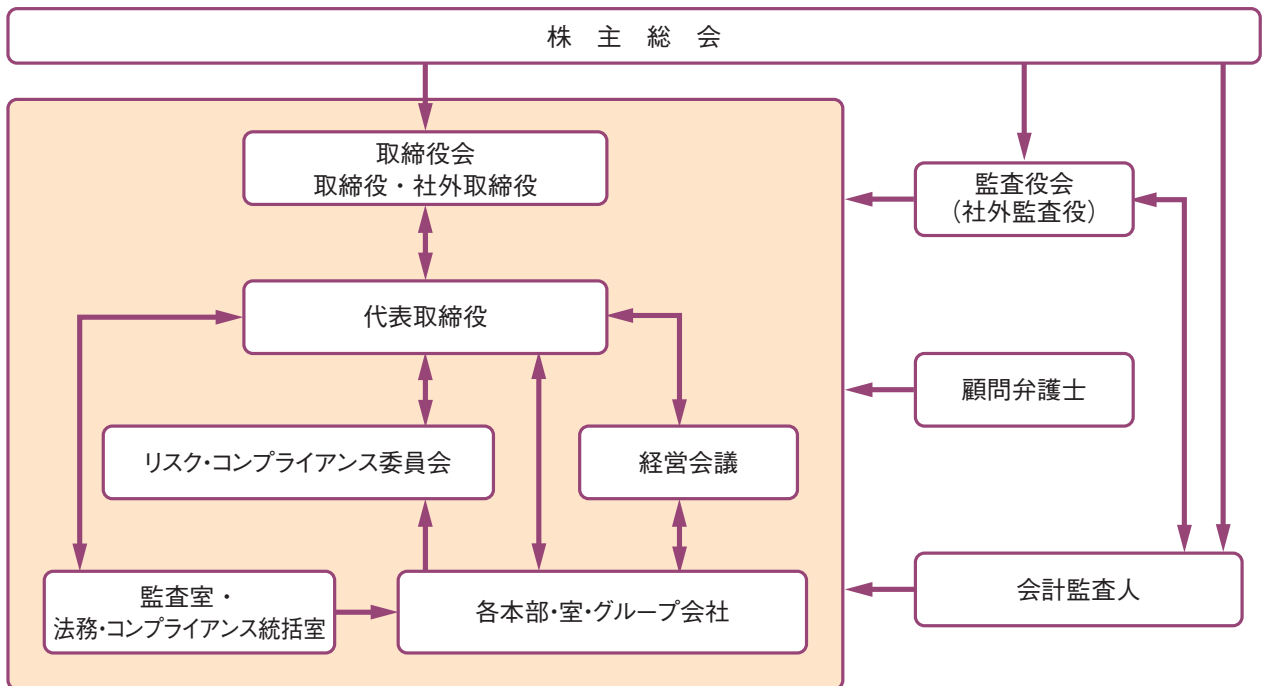
コーポレートガバナンス

エフピコのコーポレートガバナンスは、経営戦略に関する意思決定の迅速化と経営の効率性を高めること、透明性を確保することを基本的な考え方としています。また、当社を取り巻く株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者より信頼を得て、永続的に良き企業市民となるため、企業活動の情報開示を積極的に行っています。そのためのマネジメント組織としてエフピコでは「取締役会制度」「監査役会制度」を採用しています。

小松会長『第9回 渋沢栄一賞』受賞

2011年2月8日、埼玉県の大宮ソニックシティで第9回渋沢栄一賞の授賞式が行われました。この賞は日本近代経済社会の父と言われ、数多くの企業の設立と育成に携わる一方、福祉や教育などの社会事業にも尽力した同氏の生き方や功績を顕彰するとともに、その精神を今に受け継ぐ全国の企業経営者等に贈られる栄誉ある賞です。小松会長の受賞は、簡易食品容器のトップメーカーの経営者としてリサイクル事業に積極的に取り組むとともに障がい者の雇用創出を通して自立支援をしていることや、高校生・大学生への資金援助を行うなどの教育支援活動が評価されたものです。





コンプライアンスとリスク管理



入社後の1週間、本社で実施する新入社員を対象とした全体研修でもコンプライアンスの意識が植え付けられます。

■ コンプライアンス ■

社長直轄の法務・コンプライアンス統括室が、健全な企業風土醸成のために、「エフピコ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」および「行動羅針盤」等を用いた研修を実施し、コンプライアンスの指導徹底に取り組んでいます。

行動羅針盤

あなたの行為は、法令に違反しませんか
あなたの行為は、会社の方針にそむきませんか
あなたの行為は、世間の常識に反しませんか
あなたの行為は、あなたの良心に背きませんか
あなたの行為は、エフピコブランドを傷つけていませんか

エフピコグループ

エフピコグループの社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、責任ある言動を心がけることができるように、社員がいつでも確認できるところに「行動羅針盤」を掲示しています。

エフピコ行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり、問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえ、厳正な処分を行う。

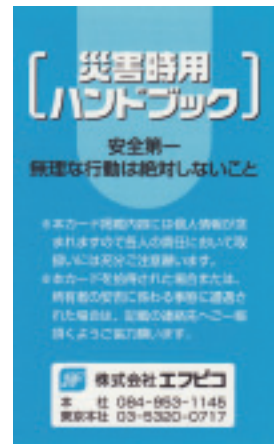


社長の席からは左右に広がるオフィス全体を見渡すことができます。情報の共有という観点から社員と隔たりのない空間を共有しています。

■ リスク管理 ■

緊急時の対応

コンプライアンス、自然災害、安全衛生など、部門をまたがる全体的またはグループとしての対応を必要とするリスクについては、リスク・コンプライアンス委員会が対応します。2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後にも、リスク・コンプライアンス委員会委員長が緊急対策本部を設置しました。ただちに被災地の社員およびその家族の安否確認を実施し、幸いにも全員の無事が確認されました。また、この震災でエフピコグループも生産や物流面で被害を受けましたが、グループ会社・部門の垣根を越えた協力・支援体制により迅速な対応ができ、早期に業務を再開することができました。今回の震災から得た教訓と経験を、今後の緊急時対応に活かしてまいります。



セキュリティゲート

不審車両進入リスクを未然に防止するため、関東ハブセンターや福山物流センターなど全国の主要物流拠点にセキュリティゲートを設置しました。セキュリティゲートでは、事前登録車両を電子認証で感知してゲートが上がり進入が可能となります。未登録車両は、守衛室で受付を済ませないと物流センターに進入できないシステムとなっています。



対談：「外から見たエフピコの企業活動とグローバルな



エフピコの社外取締役を務める末吉竹二郎氏。大手都市銀行在職時にはニューヨークに駐在するなどグローバルな視点をもつ一方、環境問題のエキスパートとしても知られる。そんな末吉氏に“社外”そして“世界”と2つの「外」から見た、エフピコの企業活動についてうかがった。

世界の動きと同期する「見える化」という試み

佐藤社長：本日はご多忙のなかお越しいただきありがとうございます。末吉さんには、外部の第三者エキスパートということでエフピコの社外取締役を務めていただいています。

末吉取締役：私自身、この1年のあいだに複数の工場を見学させていただきましたが、工場にお邪魔する前に想像していたものをはるかに上回る、すばらしい施策が行われており、大変感銘を受けました。

佐藤：ありがとうございます。ご存知のように、食品トレーはアメリカのスーパーマーケットという業態が開発された時、セルフサービスのツールとして開発されました。ところが欧米と違うのは、日本の消費者は鮮度の高さにもこだわりを持っている点です。

末吉：私が20代のころ駐在していたアメリカには、アルミホイールにいろんな食品が一式入ったTVディナーというのがありました。それはそれで便利だな、と思った記憶があるのですが、今回あらためてエフピコのトレーを拝見していると、新鮮さも含めた日本の食文化に対する思いがいろいろなところに体现されているなど感じました。

佐藤：その一方で、我々はプラスチックという素材が未来永劫良いのかということについても研究しています。しかしコスト、品質、安全性などを考慮すると、プラスチックに代わるものがなかなか見つかりません。そこで回収リサイクルをして、資源を有効活用することが重要になってくるのです。

末吉：私もまったく同感です。日本の社会全体がこの利便性を十分享受している訳ですから、それを今すぐなくせという話ではないと思います。その良さを追求するなかで、いま問題になっている地球温暖化などの視点から、どうやったら長続きする方法でこのような利便性を提供できるか、そちらを考えるべきだと思います。

佐藤：エフピコが回収リサイクルを始めたのは20年ほど前になりますが、その際に重要なことは、消費者の方々にそれだけのご負担あるいはご協力をいただいているのですから、集めたトレーはどうなっているのかということをきちっと見える形で“見える化”を進めないといけないということです。

末吉：“見える化”というのは重要だと思います。いま世界で起きていることは、消費の裏側を見ましようということです。消費者も消費の裏側を見ることによって自分にも消費者としての責任が生まれてきます。



環境対策の流れ

佐藤：我々は北海道から九州までのリサイクル設備を「ぜひ見てください」とすべて公開しています。実際にご協力いただいてトレーを回収した後、どうなっているのかをお見せするようにしています。

末吉：また“見える化”によって環境配慮など消費者が知るべき情報をどんどん出していく。そこで生産者と消費者の間のいろいろなダイアログ＝対話が始まるわけです。これは非常に意味があると思います。

高いCO₂抑制効果をもつ回収とリサイクル

佐藤：我々が1991年に業界で初めて認証取得したエコマークですが、これは「環境活動を積極的に行なう企業が製造した、環境にやさしい製品ですよ」と消費者に告知する役割を持つマークです。そして先頃にはエフピコが「エコマークアワード2010」で金賞を受賞しました。

末吉：金賞、おめでとうございます。20年近くの努力が評価されたということですから、エフピコのこれまでの方向性・施策は間違いではなかったということですね。

佐藤：我々は、常に品質の向上を検討してきました。そこで新しい洗浄の仕組みを開発し、関東、中部、福山に新しい洗浄装置を入れました。いまではさらに品質の高いエコトレーを開発・製造しています。

末吉：従来型の経済では、自然を開発して、工場モノを作り、消費者に利用してもらう。いらなくなれば、それは捨ててください、という一直線で来ました。この一直線を、リサイクル活動を通していかにして円に近づけていくかが重要です。

佐藤：トレー to トレーという循環型リサイクル製品である我々のエコトレーは、普通のバージントレーよりも約35%のCO₂抑制効果があります。

末吉：35%、3分の1が抑制できるということですから、大きい数字ですね。世界が温暖化に対処するため、日本などの先進国は、向こう10年ぐらいの間に20～25%のCO₂削減をしなけ



末吉 竹二郎氏

国連環境計画・金融イニシアチブ
特別顧問

三菱銀行ニューヨーク支店長、取締役、東京三菱銀行信託会社（ニューヨーク）頭取を経て、日興アセットマネジメント副社長。日興アセット時代に、国連環境計画・金融イニシアチブ（UNEP FI）の運営委員会のメンバーに就任。現在も、引き続きUNEP FIに関わるほか、環境問題や企業の社会的責任（CSR/SRI）について、各種審議会、講演、TV等で啓蒙に務めている。



■ 対談:「外から見たエフピコの企業活動とグローバルな環境対策の流れ」

ればいけないと言われています。ですから、単純に比べると、国としてやらなければいけない削減をはるかに上回るものが、この部分はリサイクルだけで実現するという話ですね。

佐藤: リサイクルの回収選別センターあるいはリサイクル工場は、どんなにご説明しても規模感や内容をご説明しきれません。そこでぜひ多くの方々に現場を一度見ていただきたいと常々思っています。

末吉: 私も何回でも行きたいと思っていますし、仲間にいろいろ宣伝しようと思っていますが、応募すれば簡単に見せていただけるのですか？

佐藤: そうです。すべて公開していますので、ご連絡いただければどなたでも見ていただけます。

末吉: ぜひ多くの方に見ていただきたいですね。エフピコの温暖化問題に対する取り組みを間近に見るいい機会ですね。

現代に求められる企業の姿勢

末吉: 僕はエフピコで好きな点がいくつかありますが、そのうちのひとつが障がい者雇用です。福山の工場ですべて障がい者の方々が働いている場所を見せていただきましたが、本当に

涙が出るうれしさでした。僕も働いていらっしゃる方のそばに寄って何人かの方に声をかけたのですが、本当に楽しそうに働いていらっしゃいました。

佐藤: ありがとうございます。お陰さまでこの3月末にはグループ全体で障がい者の方々の雇用実数は395名となります。約8割の方が重度なので、雇用数としては670名となります。

末吉: 実数で約400名、換算で650名を超えるというのは、たぶん断トツで日本一なのではないでしょうか。

佐藤: どうでしょう(笑)。

末吉: エコトレーの品質改良や障がい者雇用というエフピコの企業努力を背景に、ビジネスパートナーにどういった企業や取引先を選ぶのが適切かという視点で意見を申し上げたいと思います。これまでは、自分さえよければ社会から糾弾されることはないだろうと思ってビジネスをやってきましたし、社会も、あなたの企業はしっかりやっていますね、ということで許してきました。許してきたという意味は、その企業が前後で社会的配慮、環境的配慮をあまりしない取引先と取引をしても、あなた自身はしっかりしているからいいですよ、というような慣行がありました。

佐藤: そうですね。

末吉: しかし、それだけでは大きな変化が見られない、環境問題の解決につながらない。では、どうしようかと考えた社会は、あなたはしっかりしているかもしれないけれども、あなたの前後がダメであれば、あなたもダメだという判断をしますよという具合になってきたのです。つまり、川上から川下を通じてすべてのサプライチェーン、バリューチェーンで、それぞれがちゃんとグリーンな企業になってほしい、社会的配慮をする企業になってほしいということが要求されるようになってきています。

佐藤: 世界的に見られる潮流ですね。

末吉: そうです、これが世界の流れです。ですから、先ほど申し上げましたようなエコなトレーを作っ



ているエフピコ、障がい者をたくさん雇用しているエフピコであれば、そのエフピコの製品をお使いになる食品業界の方々、あるいはスーパーの方々、どこの製品を選ぶかによって自分自身の姿勢が示されるわけです。いいもの同士が手を組んでいくということが、これからの厳しいビジネスの世界の競争を生き残っていく大切なポイントになると思います。

新たなるチャレンジ

佐藤：我々にはチャレンジしようと思っている新たな試みがあります。回収した透明容器の約5割がA-PETという素材でできているのですが、このPETというのは、皆さんご存じのところではいわゆるペットボトルです。ペットボトルはいま約7割を超える回収率なのですが、そのほとんどは繊維に再利用されています。しかも、国内よりも海外に輸出して使われているケースが多いのです。

末吉：海外が多いんですね。

佐藤：はい。そこで我々は、回収した透明容器のPETやペットボトルをもう一度容器にできないかということを考えました。現在、中部リサイクルセンターでプラントが稼働中ですが、これがうまくいきますとペットボトルも我々が引き取って、最終的には我々の透明容器にできる「トレー to トレー」あるいは「ボトル to トレー」というサイクルが確立できます。

末吉：回収したものが原材料としてこの仕組みの中に入ると、容器やトレー、ペットボトルが永続的にリサイクルされ、我々にサービスを提供し続けてくれる、というようなことが可能になってきたということですね。

佐藤：そうです。その比率が上がれば上がるほど、新しい原材料の使用量が少なくなってきます。私は、石炭や石油・ガスなどの地下資源に対して、一度市場に出て使用されたものを“地上資源”と呼んでいるのですが、エフピコのリサイクルはこの地上資源をいかに有効に利用するかということなんです。地上資源を再生利用した分だけは、日本の原油輸入量が少なくなっているわけで、言い換えれば、この分だけは国からお金が出ていないことになります。そのお金が国内に廻ってかつ障がい者の雇用に繋がっているわけで、私はエフピコのリサイクル事業は立派な内需だと思っているのです。



末吉：原油も一回限りではなくて、何度も人間にサービスできるということですから、本望ではないでしょうか(笑)。

エコトレーの永遠の追求

末吉：21世紀に入り10年経ちました。20世紀の経済発展というのは、日本を含めて多くの国の生活水準を非常に引き上げ、人類に大きく貢献しました。しかしその経済のあり方をひと言で表すと、大量生産・大量消費・大量廃棄です。結果、地球温暖化や生物多様性破壊の問題が起きています。

佐藤：日本でも過去には四大公害病の問題もありましたね。

末吉：そうです。そこで世界はいま何を考えているのか。省エネ・新エネ・省資源、循環型経済にシフトして、永遠に続く経済のあり方を探っていこうとしています。リサイクルの循環型経済をつくっていこうとしているのです。そういった視点から見ると、エフピコが1990年からずっと取り組んでいらっしゃるエコトレーの永遠の追求。このことはまさにいま世界が動こうとする方向とどんぴしゃり一致しています。

佐藤：そうおっしゃっていただくと、励みになります。これからも、続けていくつもりです。本日はありがとうございました。



環境における取り組み

エフピコが地球環境保全のために実践しているさまざまな取り組みをご説明します。

2010年、エフピコが展開する地球環境保全活動はひとつの岐路に立ったと言えるかもしれません。中部リサイクルセンターに配置したPETリサイクルプラントは、食品容器メーカーによるリサイクルの枠を超える新たな可能性をもたらしました。エフピコの環境への取り組みは、時代の一步先へと進んでいきます。

今ではすっかり定着したスーパー店頭での使用済み容器回収活動。ペットボトルも徐々にエフピコのリサイクル工場に運ばれて来るようになってきました。



環境方針

基本理念

当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

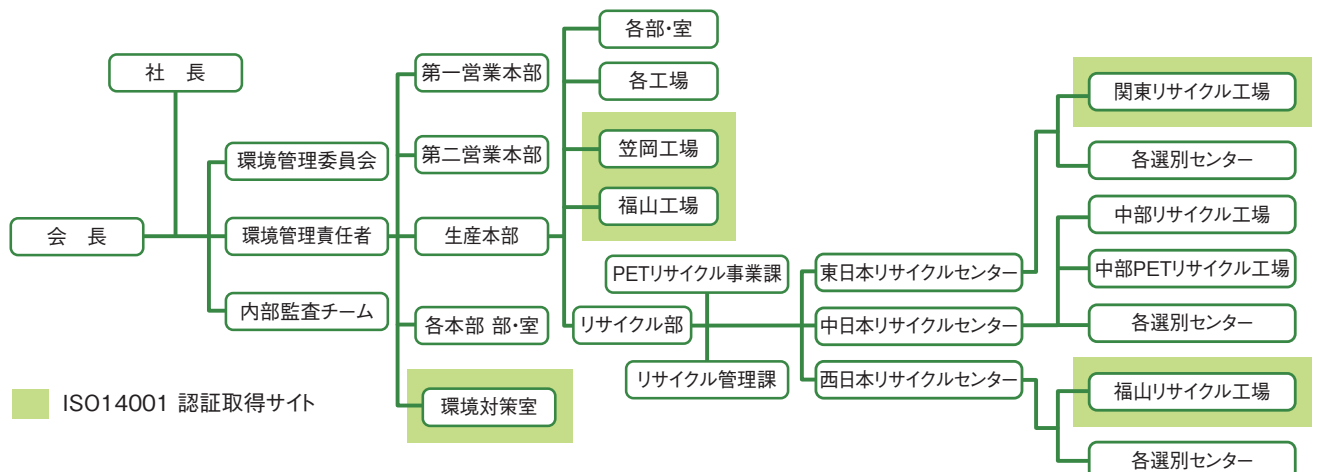
方針

- 1 CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 2 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- 4 この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- 5 この方針は、文書化し、全社員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- 6 この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。



■ 環境マネジメント体制 ■

エフピコは、環境負荷低減に全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織しています。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて全社的な活動を続けています。



トピックス

TOPICS 1



中部PETリサイクル プラント稼動開始

2010年12月、中部リサイクルセンター内にPET素材の使用済み透明容器を食品グレードのフレーク(原料素材)へとリサイクルするために導入したドイツ製のプラントが稼動を始めました。このプラントの処理能力は年1万トンにもおよび、使用済みPET容器を粉碎して容器の表面に付着しているラベルなどを除去した後、揮発留分となった不純物の除去もおこないます。その処理能力を十分に活かすため、容器のほかに使用済みペットボトルのリサイクルにも着手しました。今後の展開にご期待下さい。

TOPICS 2



エコマークアワード2010『金賞』受賞

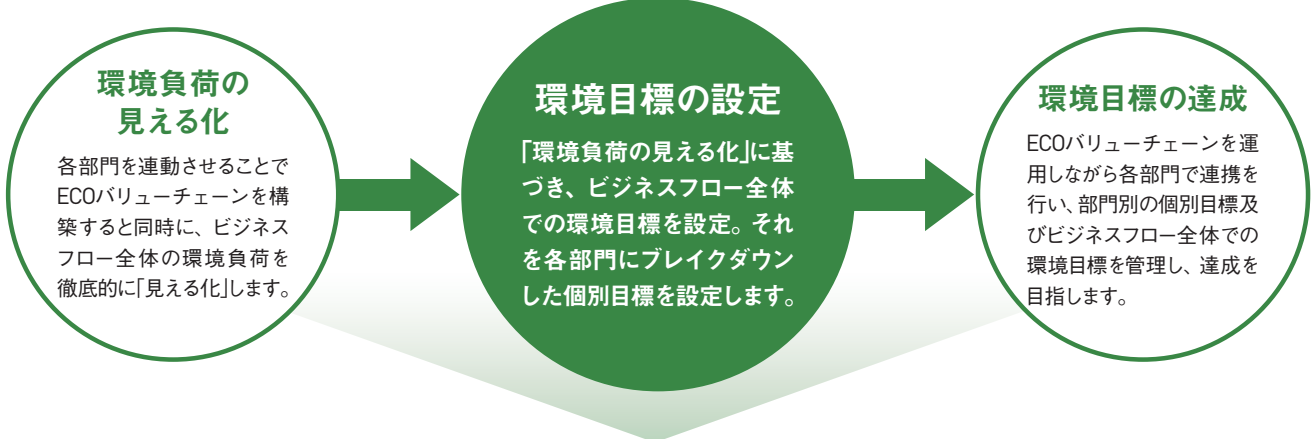
「エコマークアワード」は、(財)日本環境協会 エコマーク事務局が設立した表彰制度で、エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品の製造、販売あるいは普及啓発を通じて、エコマーク事業の目的である「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体などの特に優れた取り組みを表彰するものです。この第1回目の最高賞である金賞に、「エフピコ方式による『トレー to トレー』のリサイクル」が選ばれました。詳しくは同協会のホームページをご覧ください(<http://www.ecomark.jp/>)。



■ エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50) の環境目標策定

環境経営5ヵ年計画を発展させた環境経営新中期計画「エフピコ・エコアクション50」に基づき、2020年度の長期CO₂削減目標を策定しました。容器の軽量化、配送の合理化、使用済み容器のリサイクルなど、持続可能な社会への適合に向けて実施してきたさまざまな取り組みを、エフピコ全体のCO₂削減目標へと集約したものです。

環境経営新中期計画「エフピコ・エコアクション50」実施プロセスフロー



長期CO₂削減目標

エフピコグループのCO₂排出量^(※)について

- ・ 排出総量を、2020年度までに20%削減 (2003年度比)
- ・ 排出原単位 (販売枚数あたり) を、半減 (2003年度比)

※改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点 (工場、オフィス) からのCO₂排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO₂排出量の合計。

環境負荷の見える化を実践しながら何年にもわたり小さな努力と工夫を積み重ね、部署間の垣根を取り外してエコバリューチェーンを構築してきた成果のひとつでもあります。



製品開発における取り組み

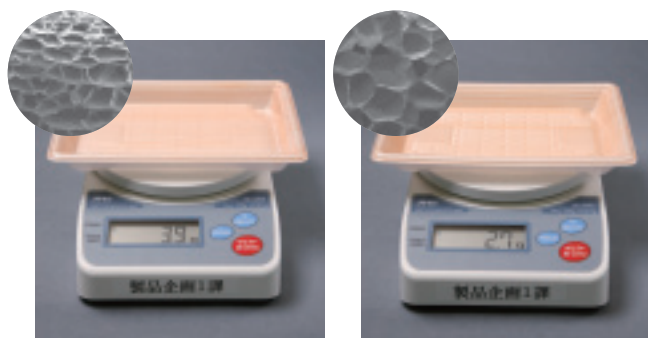


容器の金型とにらめっこする開発担当者。ほんのわずかな仕様変更が大きな環境負荷低減をもたらすこともあります。

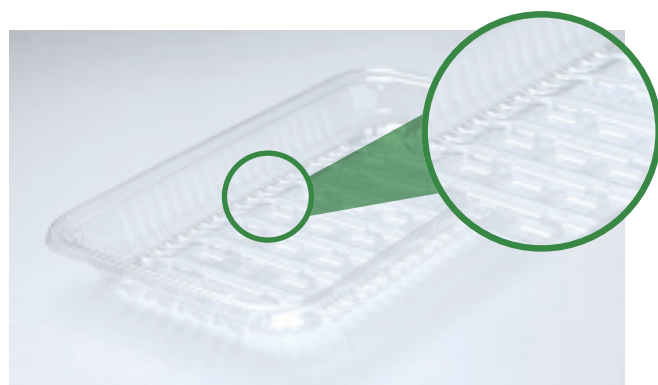
製品の軽量化・薄肉化

発泡素材を使った食品トレーや弁当容器などの製品の場合、発泡倍率を高めることで使用する原料の削減が可能となります。こつこつと地道に続けた努力の成果として、エコトレーは16年間で約30%の軽量化を達成、製品全体でも直近の8年間で約15%の軽量化となりました。軽量化による省資源の取り組みは終わることがありません。

発泡倍率を高めたトレーや、透明容器など非発泡の容器の場合、強度を高めるための形状デザインが必要となります。容器のどの部分にどのような工夫をするかが設計者の腕の見せ所です。下写真の新製品にも凹凸を付けて強度を増すなど、新たなデザインの工夫が施されています。

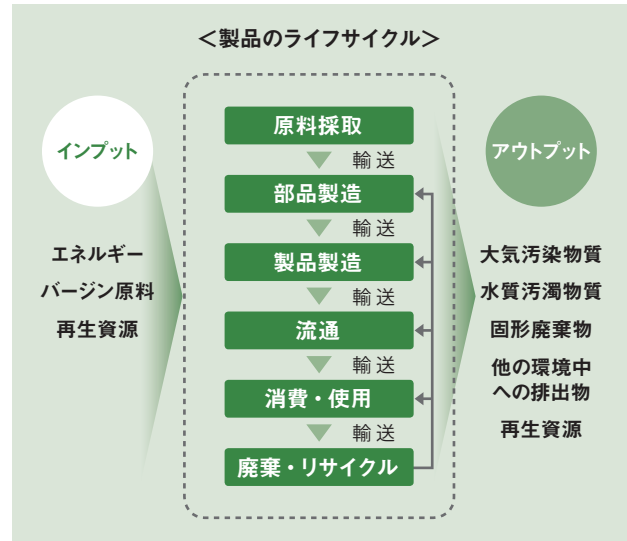


形状と容積は同じでも発泡倍率を高くすることにより、トレーを軽量化することができます。



ライフサイクルの見える化

環境負荷を計算するために行う製品の「ライフサイクルの見える化」は、製品開発部署の担当になっています。製品の原料採取から製造、廃棄にいたるまでのライフサイクル(原料採取→製造→流通→使用→廃棄・リサイクル)のすべての段階におけるさまざまな環境への負荷を明確にするには、製品が生まれる時点からの追跡が必要だからです。エフピコグループ内に留まらず、原料や資材の調達先の方々とも連携しながら数値の収集と計算を行っています。カーボンフットプリント制度の普及に対応するためにも、全製品の「ライフサイクルの見える化」を継続して実施しています。



環境負荷低減も目指した新素材による製品開発

食生活の利便性を追求した新製品を開発することが、同時に環境負荷低減に繋がるケースがあります。今期開発した新素材を用いた製品の中から、利便性と機能性もたらした環境負荷低減の例を5つご紹介します。

① マルチFP (MFP)



- 耐熱性・耐寒性・断熱性に優れています・・・耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能）
／耐寒温度：マイナス40度
- 軽さを追求しました・・・軽量素材：PPファイラーと比べておよそ60%軽量化

② NEWハイスター (NHS)



- 耐熱性・断熱性に優れています・・・耐熱温度：120度（電子レンジ使用可能）
- 発泡倍率を上げて軽量化しました・・・従来のハイスターに比べ、およそ20%軽量化

③ 1軸延伸PET



- 1つの方向からシートに延伸をさせることで強度をアップしました
- 強度アップと同時に軽量化しました・・・無延伸PETに比べ、約25%軽量化

④ 透明PP



- 耐熱性・耐油性に優れています・・・耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能）
- 従来の透明PPと比べて格段に透明性が向上しました

2軸延伸PET

来年度発売

- 縦と横の2つの方向からシートに延伸をさせることで強度と耐熱性をアップします・・・OPSと同程度の耐熱性
- 耐油性に優れています

工場における取り組み



帽子に付けたカラーの帯は作業の種類と社員の熟練度レベルを表しています。

「ものづくりプロジェクト」と「技能塾」の推進

「ものづくりプロジェクト」は製品の品質向上を目的とし、作業の効率化を推進するため2006年にスタートしました。生産性の向上は無駄の削減や省エネにもつながり、環境負荷低減に大きく貢献しています。年2回全国の工場が集まって開催する成果発表会も行い、生産工場で働く全社員による裾野の広い活動となっています。さらに2008年からはオペレーターのスキルアップを目的とし「技能塾」と銘打った研修制度を始めました。この研修に参加するのは、各工場長が推薦するオペレーターで年に2回の研修に全国から48名が参加します。技

能塾はものづくりプロジェクトの一環としてスタートしましたが、生産現場で豊富な知識、経験、技術を持つリーダーを養成するという目的もあります。プログラムは①2週間の実地研修、②各所属工場に戻っての研修内容の実践、③再集合して各自の実践内容を検証するまとめ研修となり、その期間は数ヶ月におよびます。修了者にはワッペンを付与しますが、受講の回数やコースの種類によって色によるランク付けをしています。高いレベルのものづくりの実践と並行し、効率化の推進による環境負荷低減の試みは質、量ともに進んでいます。

「ものづくりプロジェクト」

生産工場全社員参加による改善推進活動の発表と情報共有など

「技能塾」

各工場長から推薦されたオペレーターの技術研修



環境負荷の見える化

生産工場における環境負荷の見える化は、各工場の状況に合わせて実施していますが、設備ごとに設置した計測器の中央管理を目標としています。右上の一連の写真は関東工場の生産機械に設置した電力量計とその数値を工場事務所で確認する様子ですが、下の写真ではさらに本社事務所からネットワークを介して遠隔で笠岡第二工場の計測数値を確認することが可能になっています。また、新たにグループ会社に加わった企業の生産工場でも、同様の見える化を実施していく計画となっています。



消耗品などのリサイクル

生産過程で出る端材、製品や使用済み容器の梱包材なども廃棄することなく、可能な限りリサイクルを行っています。右の写真は、完成した製品を包装するポリ袋の端材を再利用するため溶解機に入れているところです。エフピコの実験工場とリサイクル工場はすべて隣り合わせで配置されているため、両方の工場に出た消耗品などをまとめてリサイクルすることができるのです。



品質方針ならびに品質目標(笠岡工場)

●品質方針

より良い製品で高い信頼、顧客のニーズを満たす製品を提供する。

本方針を維持・継続・実行する為に私達は下記の事項を確立します。

1. お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
2. 本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
3. 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
4. 市場の変容、当工場の改革等にあわせて本方針を定期的に見直し、適切性を継続すると共に、品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。
5. 本方針を全社員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成16年9月15日 株式会社エフピコ 笠岡工場
経営者 田井 秀明

●2011年度品質目標

工場品質目標

①クレーム削減

【目標】PSP：12ppb / PS-2：4ppb / PS-7：6ppb / 押出：0ppb (社内クレーム：0件以内)

②生産性向上

部署品質目標

PSP課 ①クレーム削減 33ppb ⇒ 12ppb

②稼働率アップ(正味稼働率) 82.79% ⇒ 83.37%

PS課 ①クレーム発生率削減

・PS-2：6ppb ⇒ 4ppb

・PS-7即成：18ppb ⇒ 6ppb

・PS-7押出：0ppb ⇒ 0ppb (社内クレーム：0件 ⇒ 0件)

②稼働率アップ(設備稼働率)

・PS-2：89.45% ⇒ 89.47%

・PS-7即成：89.54% ⇒ 89.88%

・PS-7押出：93.89% ⇒ 94.18%

■ 物流における取り組み



荷物の集荷と配送を正確に行うため、一日の始まりから終わりまで配送日報の記入が続きます。

■ 物流改善発表会の継続的な実施

2009年の第1回目開催に続き、2010年11月に第2回目の物流改善発表会が実施されました。全国の物流関連グループ会社から代表者が集合するとともに、テレビ会議システムを使い総勢数百名参加の大規模な発表会となりました。

生産性、安全、衛生、労務管理など物流の現場におけるさまざまな改善施策を発表し、情報の共有を行うことを目的とした発表会ですが、今回は事前に募集した23件の候補案件のな

かから書類選考で選ばれた15件の発表を行いました。今回より評価点制度を導入し、上位5名は表彰する制度としました。



現場で気づく小さいことをどれほど吸い上げられるかがカギとなります。



評価のポイントは一

- ①改善発表内容が他のセンターの参考となり、すぐ採用可能な「判りやすく使いやすい」内容であること
 - ②改善事項が継続的に行われており、また今後の継続性も高いと思われること
- などとなっています。

こうした改善の取り組みは効率化を生んで環境負荷低減に繋がるだけでなく、社員のやる気を向上させる意味でも大変有意義です。この発表会は今後も継続して実施していく予定です。

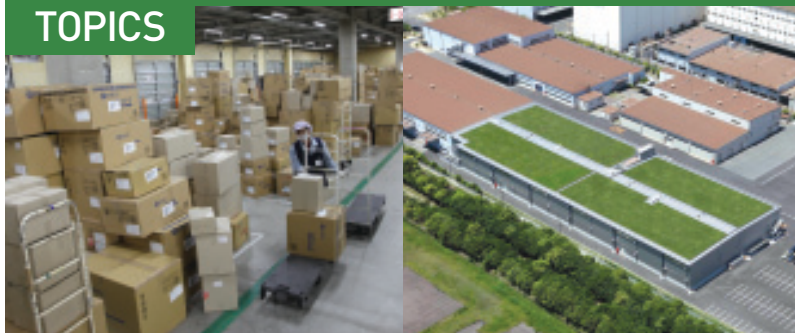
■ 効率化を追求した物流システム ■

エフピコの物流はサプライチェーンマネジメント (SCM) システムでの中央集中管理により、製造から納品にいたるまでに発生するすべての物流活動を最も効率的に、最も短い移動距離とすることを目指しています。

以下は地域単位での物流に関わる情報管理システムの例です。



TOPICS



アイ・ロジック 福山ピッキングセンター開所

2010年6月、福山を中心とした西日本の新たな物流拠点となる「アイ・ロジック福山ピッキングセンター」が完成し、稼動を開始しました。建物は2階層、延べ床面積約26,000㎡で屋上には緑化システムによる断熱効果とCO₂削減の環境配慮も行っています。それまで福山地域に分散していたピッキング（納品商品の取りまとめ）センターを配送センターと同一の敷地内に集約することで、大幅な効率化とCO₂削減効果が見込まれています。

■ 販売活動における取り組み



販売だけでなく容器の回収についてもお客様とのコミュニケーションを密にするエフピコの営業スタッフ。

■ エコトレーの販売拡大

エコトレーはエフピコが販売している汎用トレーの約70%を占めています。このレポートをご覧の皆様のお台所にも、きっとひとつはエコトレーがあると思います。エコトレーは使用済みトレーを廃棄せずに原料を再利用して新たなトレーを製造するという意味で、二重のCO₂削減効果があります。同じトレーを販売するならば、エコトレーを選んでいただくよう、エフピコの営業スタッフは常に心掛けています。ご購入の際にも、「エコトレー」マークの付いた商品をどうぞお選び下さい。



■ 使用済み容器の回収とお客様による工場見学

使用済みトレーや透明容器の回収については、スーパーマーケットなど販売の現場の方々の協力が不可欠です。回収率アップのための各種ツール(回収ボックス、ポスター、DVD等)もエフピコでは用意しています。回収拠点であり消費者との接点を持つ方々の積極的な回収活動は大きな推進力となります。

エフピコでは、スーパーなどのお客様をリサイクル工場の見学にご招待しています。回収したトレーや容器がその後どのように扱われ、どのような方法で生まれ変わり、その効果はどれほどになるのか。お客様の協力の成果をご自身の目でご覧いただくことで、回収率アップに向けてさらなるご協力をいただきたいからです。見学に訪れたほとんどのお客様は納得され、「来て良かった」との声をいただいています。



■ オフィスにおける取り組み



大きな窓と天井からたくさんの自然光を採り入れ、省エネと快適さを追求した社員食堂。

■ さまざまな環境負荷低減の取り組み

エフピコグループのオフィスでは、以下のような環境負荷低減活動を行っています。オフィス部門はグループ全体で排出するCO₂の量としては非常に小さいですが、社員の環境への意識を高めるという意味では、大きな役割を果たしています。

■ テレビ会議の活用

エフピコグループでは、テレビ会議のネットワークを利用して会議・ミーティング等を行い、移動に伴う時間と交通費、そして交通手段を使用しないことによるCO₂削減を実践しています。今ではエフピコグループにとって欠かせない設備となっています。



■ 低公害車の導入促進

- ・電気自動車：1台
 - ・ハイブリッドカー：82台
 - ・低公害車：125台
 - ・軽自動車および小型車：13台
- ※2011年3月末現在



■ 廃棄物の仕分け

- ・徹底したゴミ分別によるリサイクル意識の醸成。
- ・ペットボトルは中部リサイクルセンターでリサイクル。



■ ペーパーレスによる紙の使用量削減

各種帳票類のペーパーレスによる紙の削減およびプリントアウト時の両面出力等で紙の使用量の削減に努めています。

■ 電気使用の節約

- ・オフィス内をエリアに分けた照明と空調の管理。
- ・12時からの休憩時間の45分間、事務所内・受付エリアを消灯。



■ エフピコ方式リサイクル

食品トレーを使い捨てとせず、何度も繰り返し利用するため、エフピコでは「エコトレー」(再生トレー)を生産しています。そのためのリサイクルシステムをエフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」という名前で呼んでいます。使用済みトレーを廃棄せず、また回収分を再生原料として使用することによる、CO₂削減のダブル効果があります。

生産者であるエフピコから最終的な使用者である消費者へといたる道を逆にたどることで、使用済みトレーをエフピコへと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力体制で成り立っています。



■ 全リサイクルネットワークの再編 ■

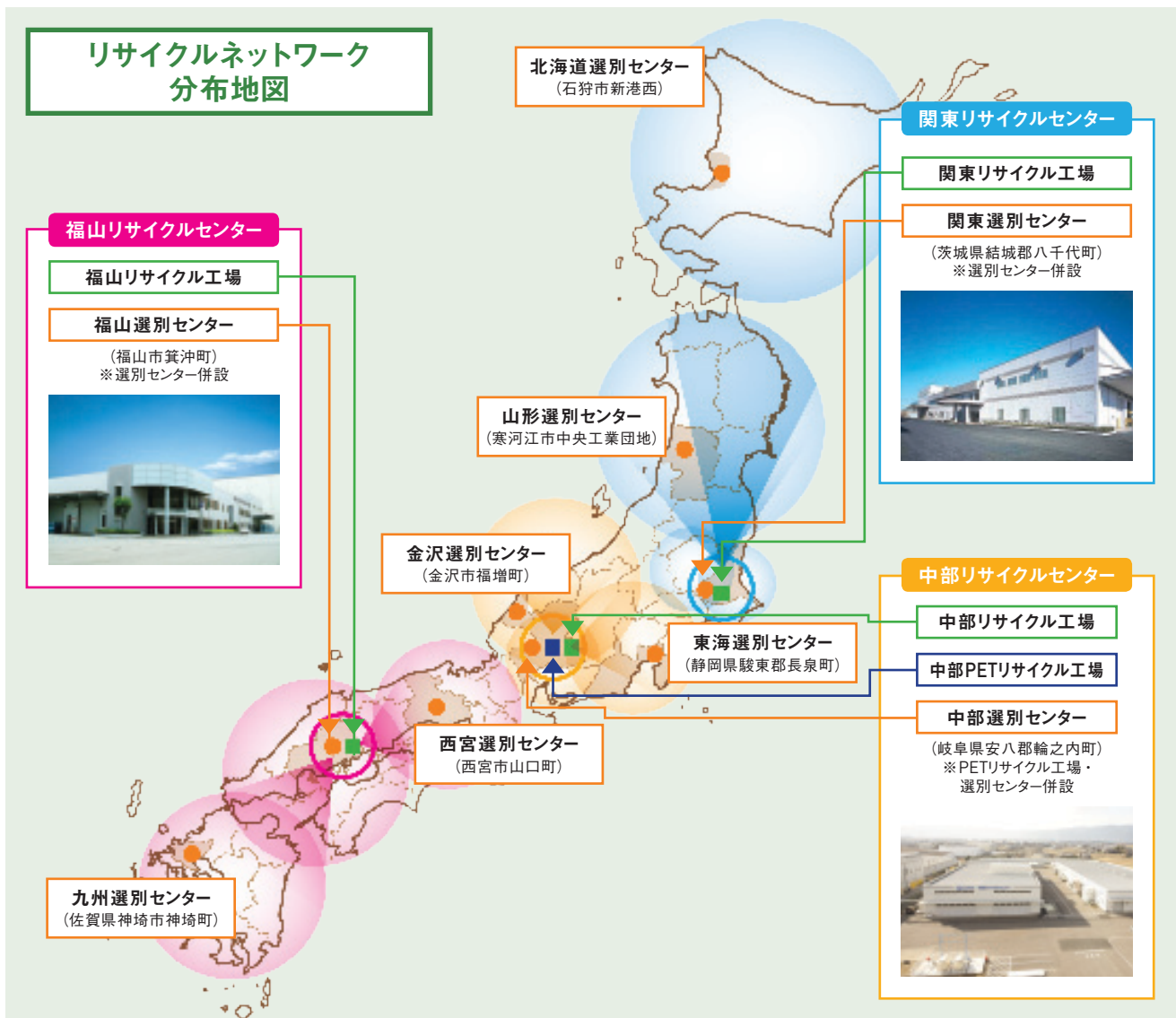
今期、全国に張り巡らせたエフピコのリサイクルネットワークをより効率的なものとするための再編を行いました。その狙いは以下に集約されます。

選別センターの増設
7センター
▼
9センターへ

リサイクル工場数を集約
6工場
▼
3工場へ

回収したトレイ・容器の選別
地域に密着した選別センターを配置し、選別済み容器を圧縮してリサイクル工場へ輸送することにより、物流による環境負荷を低減しました。

選別後のトレイ・容器の原材料化
高品質の再生原料を生産するため最新の洗浄装置を設置した工場へと進化させました。



トレーのリサイクル工程

トレー編



選別



再生できないトレーなどを取り除き、白トレーとカラートレーに分類します。トレーの場合、選別工程には必ず手作業が必要であり、最も時間と手間が掛かります。

搬入



回収されたトレーや容器は、各地区の選別センターに搬入されます。

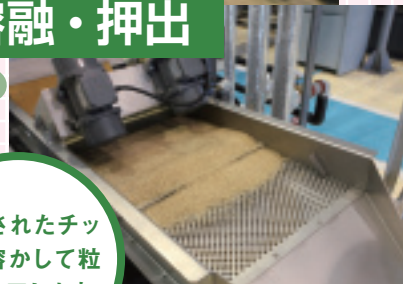
エコトレー



エコトレーにはエコマークが付いています



溶融・押出



乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。

エコトレーの原料となるペレットの完成です。

ペレット



品質検査



風力選別・1次破碎



風の力により細かい異物を取り除き、トレーを砕きます。

1次洗浄



水で洗浄します。

洗浄水循環



浄化装置

2次洗浄



アルカリ温水で洗浄します。

2次破碎



さらに細かく砕きます。

すすぎ洗浄～脱水



水ですすぎを行った後、脱水します。

温水循環装置



洗浄水を温度保持しながらアルカリ濃度を一定に保つ装置。

透明容器のリサイクル工程

透明 容器編



搬入



回収された透明容器は、各地区の選別センターに搬入されます。

選別



1 投入

透明容器を素材ごとに仕分けします。

選別には赤外線による素材選別装置を使います。



6 素材選別

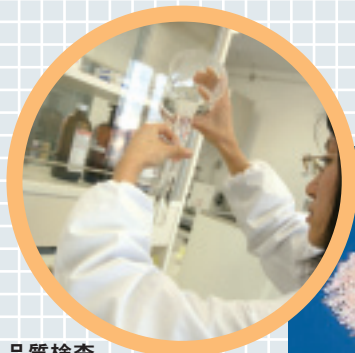
- OPS(オリエンテッドポリスチレン) ←
- PET(ポリエチレンテレフタレート) ←
- PP(ポリプロピレン) ←
- その他 ←



エコトレー



エコトレーの原料となるペレットの完成です。



品質検査

ペレット



素材ごとに破碎・洗浄



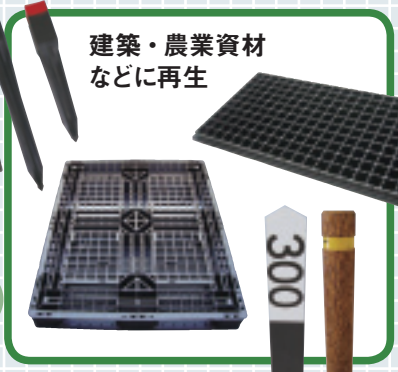
透明容器の選別は、そのほとんどを最新のシステムで機械が行います。

OPS
PET



OPS、PET素材を洗浄しながら碎きます。

OPS
PET
以外



建築・農業資材などに再生

PET編
次ページへ続く

PET



OPS

2 傾斜コンベア



3 一列化



5 素材識別



4 手選別・整列



溶融・押出



乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。

PETのリサイクル工程

PET編

PET=
polyethylene terephthalate

(ポリエチレンテレフタレート)

ポリエステル的一种でペットボトル、食品容器、フィルムの素材、衣料用の繊維などに使われています。

搬入



PET
ボトル

キャップやラベルが付いたものも含む使用済みPETボトルが圧縮された状態で搬入されます。

(前ページの工程より)

PET
容器

透明容器
たまごパックなど



異素材選別/金属除去/破碎

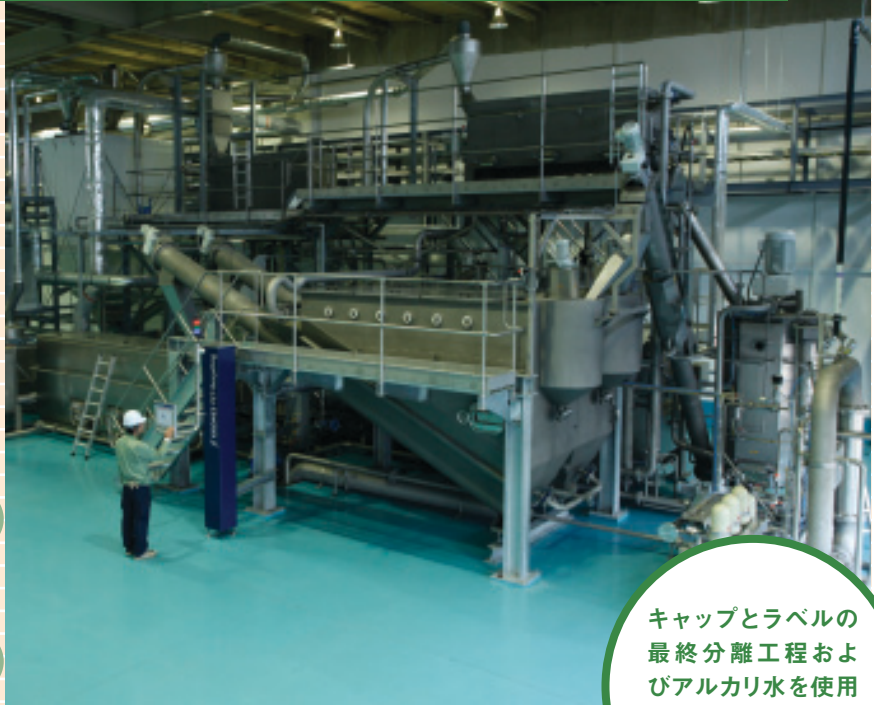


食品グレード
再生PETフレークの完成

品質検査を経て

食品グレードの原料として使用できるPETフレークとなります。国内での循環利用サイクルの完成です。

キャップ・ラベル除去/アルカリ洗浄



キャップとラベルの最終分離工程およびアルカリ水を使用する洗浄により不純物を除去します。

圧縮されたPETボトルをバラバラにし、その中から異素材品を選別して金属探知機で金属除去した後、碎きます。

高温真空にした空間を時間をかけて通過させ、揮発留分となった不純物を除去する工程です。

揮発留分除去



■ 取り組みの成果 ■

※ペットボトルについては本年度に本格始動のため、回収及びリサイクル実績の報告は次年度以降となります。

トレー編

| | 2010年度 | 累計 (1990年～2011年3月) |
|-----|------------|-----------------------|
| 回収量 | 7,347トン/年 | 9万3,106トン |
| 枚数 | 18億3,675万枚 | 232億7,650万枚 |



透明容器編

| | 2010年度 | 累計 (2007年～2011年3月) |
|-----|---------|-----------------------|
| 回収量 | 965トン/年 | 1,391トン |
| 枚数 | 9,650万枚 | 1億3,910万枚 |



社会的な波及効果



今までに節約した地球資源

石油の量:
2億2,679万リットル

ドラム缶約113万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費:
約418億円

回収車約167万台分

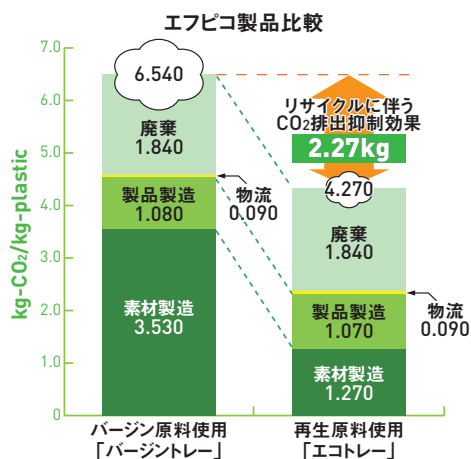
今までに回収したトレー・透明容器

東京ドーム約15.5杯分

2010年度に削減したCO₂の量

約3万7,000トン

エコトレーを1kg(約250枚)使うと
約2.27kgのCO₂排出抑制効果



工場見学の受け入れ



リサイクル工場の見学風景。少人数から大人数まで、様々な立場や年齢の方々にお越しいただいています。

リサイクル工場・選別センター 見学のお誘い

左上の写真は埼玉県内の複数の自治体の方々による見学風景です。食品トレーという商品の分野に直接関係のない方々でしたが、リサイクルについて勉強し、その知識を持ち帰って環境負荷低減施策に活かそうという意図で見学をされました。

エフピコのリサイクル工場・選別センターには小学生、家庭の主婦、消費者団体、食品流通関係者、政府・自治体関係団体、海外の政府など、ありとあらゆる立場の方々が見学に訪れます。一度に受け入れる見学者の数は決して多くないですが、リサイクルすることの社会的意義を地道にアピールし続けています。

工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）

<リサイクル工場> 選別された容器がパレットになるまでをご覧ください。

| 工場名 | 所在地 | 見学受付 | 1団体あたり最大受入人数 |
|--|--------------------------------|------------------------|--------------|
| 関東リサイクル工場 (関東選別センター併設) | 〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448 | 関東リサイクル工場 0296-48-0400 | 120名 |
| 中部リサイクル工場 (中部PETリサイクル工場・中部選別センター併設) | 〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5 | 中部リサイクル工場 0584-68-2036 | 60名 |
| 福山リサイクル工場 (福山選別センター併設) | 〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2 | 本社秘書室 084-953-0001 | 130名 |

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

| 工場名 | 所在地 | 見学受付 | 1団体あたり最大受入人数 |
|-----------|------------------------------------|------------------------|--------------|
| 北海道選別センター | 〒061-3241 北海道石狩市新港西1丁目778番地9 | 北海道選別センター 0133-75-7015 | 25名 |
| 山形選別センター | 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地 | 山形選別センター 0237-85-3645 | 20名 |
| 東海選別センター | 〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1 | 東海選別センター 055-980-4571 | 20名 |
| 金沢選別センター | 〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22 | 本社秘書室 084-953-0001 | 15名 |
| 西宮選別センター | 〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター1丁目98-2 | 西宮選別センター 078-907-1288 | 10名 |
| 九州選別センター | 〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1 | 九州選別センター 0952-51-1028 | 30名 |

TOPICS



見学者累計30万人突破!

2010年10月1日、工場見学者の数が30万人に達成するという記念すべき日を迎えました。記念として写真の電波時計を来場者にプレゼントしました。エフピコ方式のリサイクルをスタートさせてから20年、拡大生産者責任を果たす循環型リサイクルシステムの現場をご覧ください、トレー回収への理解と協力を得ることを目的としてリサイクル工場の見学を受け入れてきました。今後ともリサイクル活動の進化を目指してまいります。

見学プログラムの一例(計:約90分)

- 1. リサイクルの流れの説明(10分)**
工場のエントランスで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
- 2. リサイクル工程の見学(30分)**
容器が運ばれてくる場所からパレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
- 3. プレゼンテーション(25分)**
エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
- 4. 説明ビデオ(15分)**
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
- 5. 質問タイム(10分)**
見学者からのさまざまな質問にお答えします。

データで見る「環境における取り組み」

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。



生産部門2010年度データ (年間積算値)

| | | | |
|--------|-----------------------------------|--------------|------------------------|
| INPUT | エネルギー | 電力 | 181,936,315 kWh |
| | | 化石エネルギー | 14,373,885 MJ |
| | 水資源 (合計389,056m ³) | 上水 | 133,924 m ³ |
| | | 地下水 | 138,107 m ³ |
| | | 工業用水 | 82,060 m ³ |
| | 原料(樹脂類他) | | 162,293 t |
| | 副資材 (合計25,418t) | 段ボール | 24,844 t |
| | | 包装ポリ | 2,330 t |
| | その他 | 潤滑油 | 11,259 L |
| | | シンナー | 4,249 L |
| 紙 | | 2,110,510 枚 | |
| OUTPUT | 製品 | 製品生産重量 | 139,522 t |
| | | (内、エコトレ生産重量) | (16,134) t |
| | 廃棄物 | 出荷トラック台数 | 90,886 台 |
| | | | 4,227 t |
| | 環境汚染物質 | 煤塵 | 36 kg |
| | | NOx | 670 kg |
| | | DXN類 | 0 mg-TEQ |
| | | BOD | 102 kg |
| | | COD | 231 kg |
| | | SS | 230 kg |

物流部門2010年度データ (年間積算値)

| | | |
|--------|---------|-----------------------|
| INPUT | | |
| エネルギー | 電力 | 15,265,432 kWh |
| | 化石エネルギー | 4,340,048 MJ |
| 水資源 | 上水 | 24,707 m ³ |
| 副資材 | 段ボール | 1,420 t |
| その他 | 紙 | 9,971,550 枚 |
| OUTPUT | | |
| 廃棄物 | | 330 t |



エピコの物流循環システム

動脈物流
製品を迅速にお届けするために整備した物流ネットワークで、効率的に配送を行います。

静脈物流
製品を配送した帰りの便が、使用済み容器を回収しリサイクル工場へ運びます。



オフィス部門2010年度データ(年間積算値)

| INPUT | | |
|--------|------|---------------|
| エネルギー | 電力 | 2,224,668 kWh |
| 副資材 | 段ボール | 1 t |
| その他 | 紙 | 6,224,500 枚 |
| OUTPUT | | |
| 廃棄物 | | 130 t |





社会における取り組み

ステークホルダーのみならず、どこかで繋がっている方々のため、エフピコが企業市民として行っていることをご説明します。

自分たちの活動をもっと知って欲しいという思いから、エフピコは企業市民としてさまざまな取り組みを行うだけでなく、社会と多くの接点を求めています。社会の中で生き、社会の中で活用されてこそ企業としての価値があると考えます。



■ 小学校教員の研修受け入れ

広島県教育委員会が実施する「民間企業等長期派遣研修」の受け入れ先として、エフピコは7年間にわたり教員の方々の研修を受け入れてきました。

10月から翌年3月までの半年間、環境対策室、生産工場、エフピコ愛バック、生産管理部、製品開発部、物流の順番でエフピコの社員の一員として働いていただいています。環境対策室ではリサイクル工場を見学する小学生の対応もしていただいたりと、得意な分野を活かせる場合もありますが、工場や物流部門などでは勝手が違い苦勞をされることもあるようです。

学校教育という異分野の方々との交流は、双方にとって得るものが多い、貴重な経験の場となっています。

「民間企業で働くこと自体が初めてでしたので、最初は少し不安がありました。でも皆さんに優しくいろいろなことを教えていただき、徐々に不安もとれました。工場での生産、効率化、新製品の開発、リサイクルの現場で真剣な眼差しで働く皆さんを見て、とても勉強になりました。しかし消費者の方々に信頼していただくためにはそれも普通のことなんだと感じました」



2010年度、エフピコに派遣された藤井俊介先生



2010年12月、日本最大級の環境イベントである「エコプロダクツ2010」に初めて単独出展し、多くの来場者と触れ合うことができました。

TOPICS 1

2010年度「福山市男女共同参画推進事業者表彰」受賞



福山市では、職場等における男女共同参画取組の一層の推進を図るため、女性の活用や仕事と家庭・地域活動等との両立支援に積極的に取り組んでいる事業者等を表彰しており、エフピコは2010年度の受賞者となりました。評価された取り組みの内容としては

- ・育児休暇制度の取得促進に向けた広報とその取得実績
- ・妊娠中の通院時間を通常勤務とみなし、必要な時間を与える制度の導入
- ・女性の配属が少なかった部門への女性総合職の積極的配属
- ・女性管理職比率のアップに向けた教育研修の強化と、係長職クラスへの積極登用

など多岐にわたっています。

今後も、社員がその能力を十分に発揮できる環境整備に積極的に取り組むとともに、その前提条件であるワークライフバランスの推進に努めていきます。

TOPICS 2

小松会長テレビ東京「カンブリア宮殿」に出演

2010年4月26日放映のテレビ東京系『日経スペシャル カンブリア宮殿』に会長の小松安弘が出演しました。今の時代に活躍する日本の経済人を取り上げる内容の番組ですが、小松の経営哲学を通してエフピコの社会へのかかわりのさまざまな側面をテレビの前の多くの視聴者の方々に伝える絶好の機会となりました。製品開発について語る場面では、顧客と消費者の利便性と美味しさを演出する機能・形状・デザイン面の工夫を紹介し、スタジオ内に観客として招かれた主婦の方々からも感心する声が上がりました。

株主とのかかわり



株主総会以外にもリサイクル施設の見学会を実施するなど、株主・投資家の皆様へのドアは常に開いています。

企業価値の拡大

エフピコは、株主本位の経営を実践するため、グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり純利益450円を目標としています。メーカーとして「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針を追求してまいります。

継続的に安定した配当

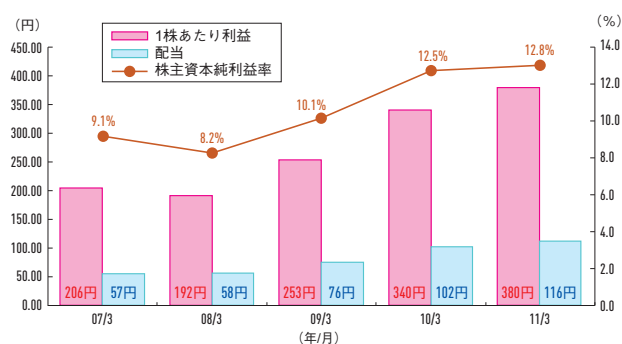
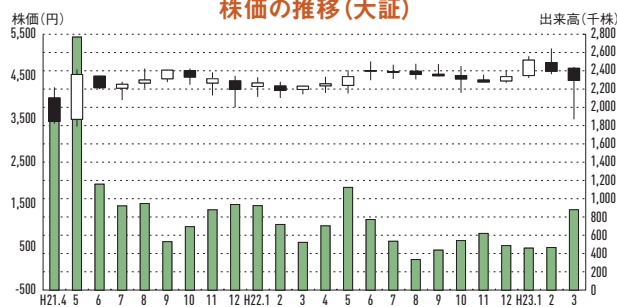
エフピコは、株主の皆さまへの利益向上に見合った利益還元を最重要課題の一つと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株あたり116円（うち第2四半期期末配当金58円）の配当を実施しました。

ホームページでの情報開示

当社ホームページにて「株主・投資家情報」を整理して掲載しております。右記の情報を常時ご覧いただくことができますので、是非ご活用ください。

<http://www.fpcopl.com/ir/>

株価の推移(大証)



業績ハイライト

- ・売上高
- ・経常利益、当期純利益
- ・当期純利益、1株当たり当期純利益
- ・自己資本、1株当たり自己資本
- ・1株当たり当期純利益、自己資本当期純利益率 (ROE)

IR資料

- ・有価証券報告書・四半期報告書
- ・事業報告書
- ・決算説明会プレゼン資料

プレスリリース

株式情報

- ・IRカレンダー
- ・株主情報/株主構成
- ・株価情報
- ・格付情報

■ 消費者とのかかわり



「エコプロダクツ2010」でリサイクルの概要を家庭の主婦に説明しているところ。消費者との直接的なふれあいの機会は非常に貴重です。

■ 各種展示会でのふれあい

見学のためリサイクル工場を訪れる方々を除けば、エフピコが消費者の方々とダイレクトに接する機会は限られています。そこでエフピコでは一般の方々が来場する環境や食をテーマにしたイベントやビジネス向け展示会に参加し、エフピコ方式リサイクルをPRするなどして企業広報に努めています。これは消費者の皆さまの声を聞く貴重な機会となっており、今後も可能な限り日本全国のイベントに参加していく予定です。

エフピコが2010年度に参加した主なイベント

| 日付 | イベント名 | 開催地 |
|--------------------|-------------------------|-----|
| 2010年6月5日 | 第5回府中環境フェスタ | 東京都 |
| 2010年6月6日 | 平成22年度「環境の日」ひろしま大会 | 広島県 |
| 2010年9月18日～19日 | 神石高原町「第1回エコ・福祉祭り」 | 広島県 |
| 2010年10月17日 | 福山市「第9回リサイクルフェスタ」 | 広島県 |
| 2010年10月17日 | 第22回長泉町福祉健康まつり | 静岡県 |
| 2010年10月31日 | 2010温暖化ストップ!フェア in ひろしま | 広島県 |
| 2010年11月6日～7日 | おかやまエコ&フードフェア2010 | 岡山県 |
| 2010年11月15日～12月20日 | 「広島県民文化センターふくやま」常設展示 | 広島県 |
| 2010年11月20日 | 第2回府中エコ博 | 東京都 |
| 2010年12月9日～11日 | エコプロダクツ2010 | 東京都 |



■ 地域でのゴミ清掃に参加

2010年8月22日、「第2回芦田川一斉清掃」(主催：福山市子ども会育成協議会)に参加しました。芦田川の河川敷に落ちている空き缶、ペットボトル、吸殻などの回収を行うことができました。清掃活動中は参加者の方々に声を掛けていただくなど、地域住民の方々とコミュニケーションを図ることもできました。今後も企業の社会的責任としてこのような地域貢献活動に積極的に参加してまいります。



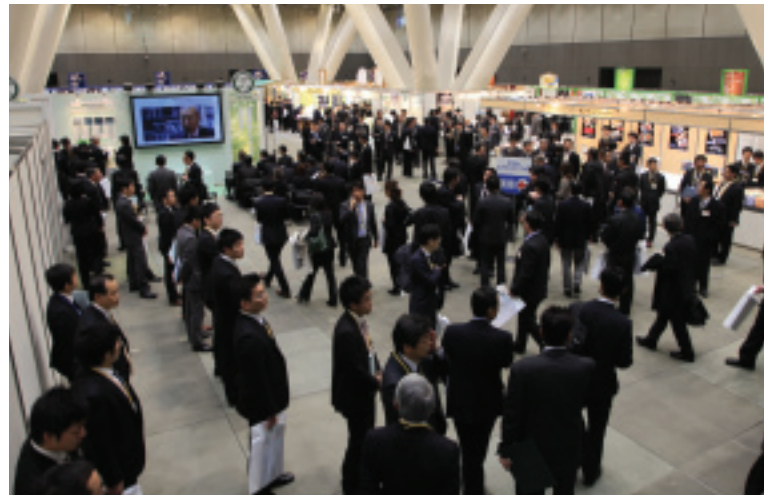
お客様とのかかわり



エフピコミニフェア
2011でプレゼンテーションを行う社員。新製品、新たな売り方などを一堂に披露します。

「エフピコミニフェア」でのご提案

お客様であるスーパーや包材問屋の方々に対し、エフピコはさまざまな形でコミュニケーションを取り、提案を行っています。日々の営業活動での製品提案はお客様の時間が限られるため、お客様の都合に合わせて東京本社「キッチンスタジオ」にお越しいただき、きめ細やかな説明を行うこともあります。しかしエフピコのプライベートショーである「エフピコミニフェア」では、ほとんどすべての製品を一堂に揃えてお客様の近くまで出向き、短時間で製品をお見せすることのできる、より貴重な機会となっています。



今回のフェアは2011年2月下旬から1ヵ月をかけ大阪、東京、名古屋、福岡の4会場で実施しました。4会場トータルで1万2,400人のお客様にご来場いただき、どの会場も

盛況で活気溢れる展示会となりました。今回は「実証成功事例大全」というテーマを設け、お客様が実践して成功にいたった売り場での施策を集め、参考にさせていただこうとの主旨で開催しました。

商品陳列のヒントになる情報を豊富に用意し、お客様からは大変参考になったと評価をいただきました。

会場内では以下のコーナーでお客様にさまざまな提案を行ったほか、「サンプルコーナー」や環境をテーマとした「エコストアのススメ」のコーナーも設けました。



21の異なるテーマで成功事例を集めたコーナー。



スクリューキャップ容器の新しい使い方を提案。



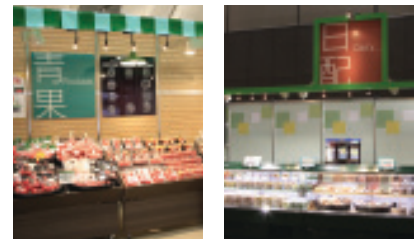
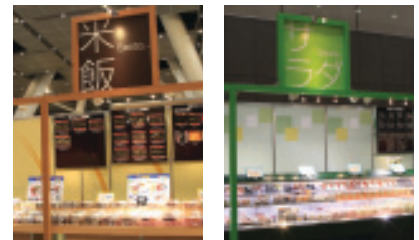
生肉、鮮魚、米飯、サラダ、青果、日配の各コーナー。



容器の新しい機能を説明し、使用用途の拡大を提案。



新しい素材で製造した容器をお披露目。売り方の可能性を提案。



「キッチンスタジオ」でのご提案

エフピコ東京本社には「キッチンスタジオ」と名づけたプレゼンテーションをしながら商談を行うための部屋があります。この部屋にはご提案製品、カタログやPOPなどの各種印刷物、実際の売り場で使用されている冷蔵ケースなどがあるほか、シンクや調理スペースも備えています。

ここには主にスーパーなどのお客様にお越しいただき、実際に容器に入れた品物を冷蔵ケースや棚に並べてみながら売り場づくりを考えての提案を行っています。年に数回ユーザー向けに提案会を実施し、100名程度の方々に前にしてのプレゼンテーションを実施することもあります。

写真のみの提案ではなく、実際の使用シーンをシミュレーションすることができるため、お客様の商品企画にも役立っています。このスタジオはお客様にもエフピコにも欠かすことのできない施設のひとつです。



容器

売り場冷蔵ケース

カタログ、POP等

障がい者の雇用



皆が集まって一緒に
食べるお昼休みの時
間。仕事だけでなく、
個人としての成長も
考えた支援プログラ
ムを行っています。

TOPICS 1



フロアホッケー活動スタート

フロアホッケーは、知的障がい者のためのスペシャルオリンピックの競技のなかで最も古い競技のひとつ。スティックでドーナツ型のパックを操って点数を競い合います。年齢・性別・障がいの有無に関わらず、それぞれの体力や技能レベルに応じて、すべての人が楽しめる競技です。エフピコグループでは、日本フロアホッケー連盟の講師の方に指導をいただきながら山形県、高知県、広島県で活動を始

めました。メンバーは所属している会社や部署、また障がいの有無を問わず構成されており、ノーマライゼーションを基本的な考えとした組織となっています。昨年は総勢163名の参加者があり、本格的な活動に向けての第一歩となりました。2011年2月には福山地区エフピコフロアホッケークラブのメンバーと、高知のメンバーでの合同練習試合も開催し、共に汗を流しました。今後も、合同練習会や大きな大会を目標に活動の場を広げていく予定です。

TOPICS 2



山形選別センターオープン

2010年10月4日、エフピコ山形選別センターが稼動を開始しました。エフピコ愛パック（株）山形選別センターでは、現在24名の障がい者を雇用しており、環境と福祉の融合事業として社会貢献を目指しています。

TOPICS 3



北海道選別センターオープン

2010年10月12日、エフピコ北海道選別センターが稼動を開始しました。ここではエフピコ愛パック（株）北海道選別センターに所属する10名の障がいを持つ社員が主戦力となって働いています。

個々の能力を活かす3種類の事業

エフピコグループで働く障がい者の仕事内容は大きく分けて3種類あります。障がい者一人ひとりの障がいの度合いにより、作業の難易度や支援体制が異なるからです。多くの障がい者に雇用の機会を提供し、可能な限り自己実現のサポートを行うことを考慮した結果、現在では以下のような形態になりました。



● 容器組立・二次加工事業

主にウッド製品の組立を行っています。継続的な就労を可能にする職場とするための体制を整備し、サービス管理責任者や専任の指導員のもと、各自の適性や能力に合わせた仕事を通して、社会的に自立できる力を身に付けていきます。



◆ 容器成形事業

容器成形の工場では、工程が半オートメーション化され、手作業の部分を障がい者が担当しています。障がい者と健常者が同様の職務を担いながら共に働く職場は常に活気に満ちています。



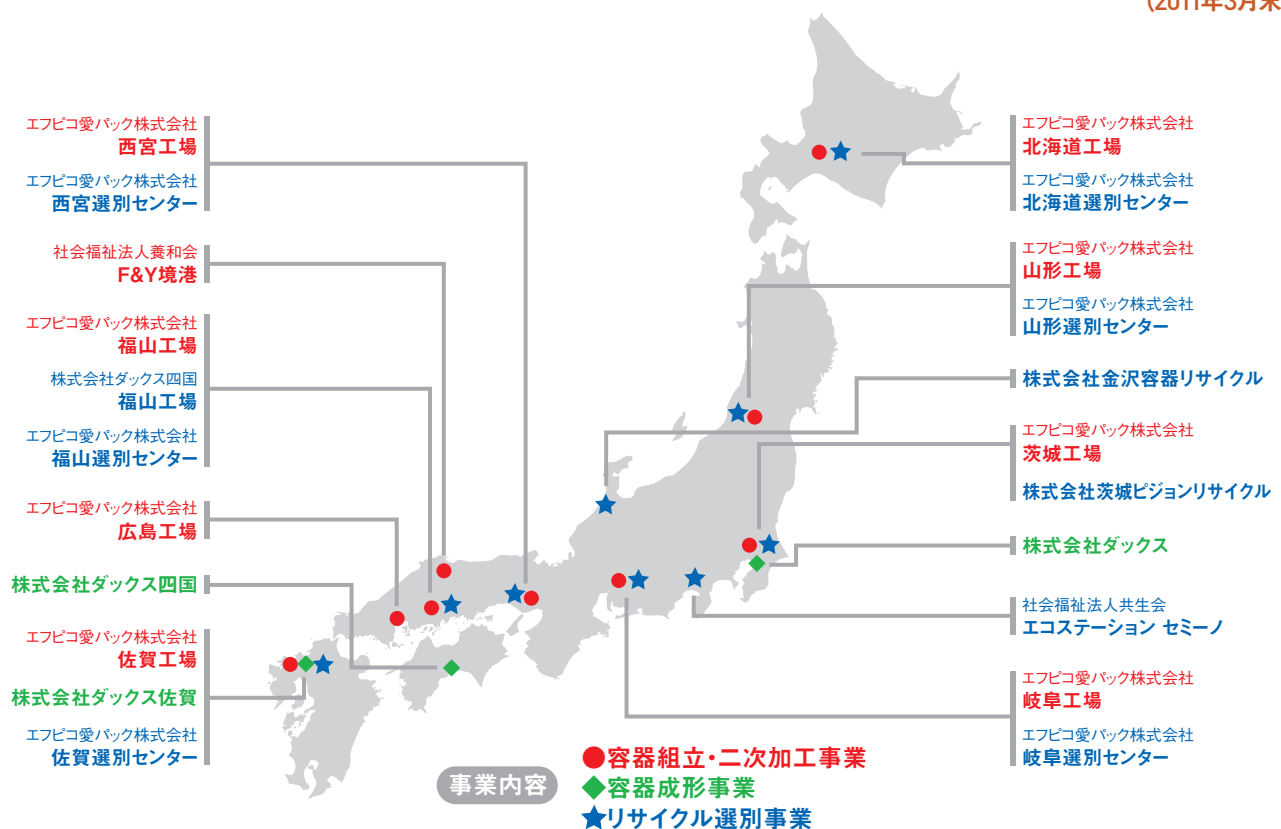
★ リサイクル選別事業

使用済みトレーの選別作業や透明容器の選別・整列作業などを行っています。それぞれの職場にはサービス管理責任者や専任の指導者を配置し、職場での基本的な生活をサポートしながら、障がい者一人ひとりの能力向上を目指しています。

障がい者雇用人数 395名 障がい者雇用率換算数 670名 障がい者雇用率 16.1%

※雇用率については、事業提携先を除いたエフピコグループの数字です。

(2011年3月末)



社員とのかかわり



2回目の産休取得予定社員を囲む既に産休や育児休暇を取得した他のお母さん社員たち。

「子育てにやさしい企業」として

エフピコは広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されています。これまで、多くの社員が産前産後休暇や育児休暇を取得しており、企業文化としてしっかりと定着しています。女性の育児休業の取得率は100%になっています。



- 小学校入学未満の子を持つ社員を対象とした短時間勤務制度の導入。
- 妊娠中の通院時間を通常勤務とみなし、必要な時間を与える制度の導入。
- 育児休業後は原則として休業直前の部署、職務に復帰。

これからは、男性社員の制度利用を促進していきたいと考えています。

さまざまな福利厚生プログラム

レクリエーション活動への補助

社員旅行や忘年会、新年会、サークル活動など、一定の条件のもと、会社や友愛会(社員親睦会)から補助が支給されます。

e-ラーニング

PCスキルや会計知識の修得、各種情報の共有を可能とするツールとして、いつでもインターネットに接続して学ぶことができます。

エフピコ倶楽部

社員とその家族が利用できる会員制の福利厚生サービスです。旅行、宿泊、チケットなど普段の暮らしに役立つ様々な優待サービスが揃っています。

海外流通事情視察研修

海外における小売、流通業の実態調査、最新情報入手のため、毎年グループ全社から選抜された30～40名が参加しています。



エフピコのあゆみ

| 沿革・表彰 | | |
|-------|-----|--|
| 1962 | 7月 | 福山パール紙工(株)設立。広島県福山市霞町に本社を設置し、PSP成型加工を開始 |
| 1968 | 3月 | 業容発展に伴い、本社を現在地(福山市曙町)に移転 |
| 1971 | 1月 | ウッド組立食品容器の製造を開始 |
| 1972 | 4月 | 福山配送センターを開設 |
| 1975 | 9月 | 総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立 |
| 1976 | 6月 | 自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催 |
| 1979 | 7月 | 配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立 |
| 1980 | 1月 | 物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する |
| 1981 | 6月 | 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始 |
| 1982 | 3月 | 高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発 |
| | 4月 | 東京支店を開設 |
| 1983 | 10月 | 大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発 |
| 1984 | 5月 | 代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任 |
| | 1月 | 東京配送センターを開設 |
| | 2月 | 総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催。大阪支店を開設 |
| | 5月 | 福山第二配送センターを開設 |
| | 6月 | 総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催 |
| | 1月 | ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始 |
| | 4月 | 100%出資の子会社エフピコ商事(株)を設立 |
| | 9月 | 大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工 |
| | 12月 | フロンガスを使用したPSPを全廃 |
| | 3月 | カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設 |
| 1988 | 12月 | ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう |
| | 1月 | CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める |
| | 7月 | 中部配送センターを開設 |
| | 11月 | 広島証券取引所に株式上場 |
| 1990 | 12月 | 東北配送センターを開設 |
| | 2月 | 大阪証券取引所市場第二部に株式上場 |
| 1991 | 4月 | 新物流センター本部を開設 バルディーズ研究会『会員部門最高得点票賞』受賞 |
| 1992 | 10月 | 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が『平成4年度リサイクル推進功労者賞』受賞 |
| 1993 | 3月 | 「財クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞 |
| 1994 | 10月 | 関西配送センターを開設 |
| 1995 | 4月 | 物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管 |
| | 2月 | 『兵庫県環境にやさしい事業者賞』受賞 |
| | 4月 | 第22回「エフピコフェア96」を東京で開催。以降、毎年4月に東京ビッグサイトで開催 |
| | 6月 | 『第4回横浜環境保全活動賞』受賞 |
| | 10月 | 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が『通商産業大臣賞』受賞 |
| | 1月 | ホームページを開設 |
| | 3月 | 「財クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞 |
| | 5月 | 代表取締役社長小松安弘が「藍綬褒章」を受賞 |
| | 6月 | 福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞 |
| | 8月 | 「HMRトップセミナー」を開催 |
| 1997 | 9月 | 社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしな賞」受賞 |
| | | 日本食糧新聞主催「第6回日食環境資源協力賞」受賞 |
| | 10月 | 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞 |
| | 12月 | 新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(福山市)を竣工 |
| 1998 | 10月 | 福山配送センターに新倉庫竣工 |

| | | |
|------|-----|---|
| | 2月 | 代表取締役社長小松安弘が『第19回毎日経済人賞』を受賞 |
| 1999 | 4月 | エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始 |
| | 10月 | 新素材容器「ハイスター」を開発 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞 特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県)を竣工 |
| | 1月 | MAPS(容器内気体調節式包装システム)デザインセンター(福山市)を新設し実験開始 |
| | | 東京証券取引所市場第二部に株式上場 |
| 2000 | 3月 | 関東つくば工場(茨城県)を稼働開始 |
| | 5月 | エフピコモダンバックにて、インターネットとCD-ROMを利用した通信販売を開始 |
| | 7月 | 「第4回エコライフびわ湖賞」にて『アイディア部門優秀賞』受賞 |
| | 11月 | 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更 東京本社にキッチンスタジオを開設 |
| | 2月 | 関東第2配送センター(茨城県)を稼働開始 |
| | 5月 | 「エンターバック(ワンタッチ自動トップシール機)」の国内独占販売契約を韓国エンターライン社と締結 |
| 2001 | 7月 | 「第4回エコライフびわ湖賞」にて『アイディア部門優秀賞』受賞 |
| | 11月 | 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更 東京本社にキッチンスタジオを開設 |
| 2002 | 2月 | 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始 |
| | 1月 | 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続終結) |
| 2003 | 7月 | 東日本ハブセンター完工 |
| | 11月 | 山形工場稼働開始(山形県寒河江市) 「ウエステック大賞2003」にて『事業活動部門賞』受賞 |
| | 3月 | 東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設 |
| 2004 | 5月 | 東北配送センター(宮城県黒川郡)を山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転 |
| | 12月 | 東京本社2階にテイクアウトの形態で容器とメニューの研究開発を目的とする惣菜店舗「Cook Labo(クックラボ)」を開設 |
| 2005 | 9月 | 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場 「愛・地球賞(財日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催)」を受賞 サンプル受付センターを稼働開始 特例子会社(株)ダックス佐賀設立 |
| 2006 | 9月 | (株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞 就労継続支援A型子会社を目的とする「広島愛バック(株)」設立 12月 「財小松育英会」設立 |
| | 2月 | 関東下館第2工場を稼働開始 |
| | 3月 | 就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立 |
| | 4月 | 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞 エフピコ八千代センターを稼働開始 |
| 2007 | 8月 | エフピコ愛バック(株)佐賀工場を稼働開始 「ものづくり大賞」にて『経済局長賞』受賞 |
| | 9月 | エフピコ愛バック(株)岐阜工場、茨城工場を稼働開始 |
| | 10月 | エフピコ愛バック(株)西宮工場、山形工場を稼働開始 |
| | 12月 | 本社新社屋(福山)竣工 |
| 2008 | 2月 | 退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立 |
| | 8月 | 日本経済新聞社と(株)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞 |
| | 3月 | 第1回ふくやま環境賞「事業所部門」受賞 |
| | 5月 | 西関東ビッキングセンター稼働(東京都町田市) |
| | 6月 | 太平洋興業(株)より包材部門を事業譲受 |
| 2009 | | 代表取締役会長 小松安弘が『第11回企業家賞』を受賞 8月 (株)茨城ビジョンリサイクルを設立 10月 (株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立 |
| | 3月 | 「2010エフピコフェア」を東京ビッグサイトで開催 |
| 2010 | 4月 | ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受 |
| | 6月 | (株)アルライトを連結子会社化 |

エフピコのおゆみ

| | | |
|------|-----|--|
| 2010 | 6月 | (株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター開所 |
| | 10月 | インターパック(株)を連結子会社化 |
| | 12月 | ダイヤフーズ(株)を連結子会社化 |
| 2011 | 2月 | 「エコマークアワード2010」にて「金賞」受賞 代表取締役会長 小松安弘が「第9回渋沢栄一賞」受賞 |

| | | |
|------|-----|------------------|
| 2010 | 10月 | 工場見学者累計30万人突破 |
| | 10月 | 山形選別センター稼働開始 |
| | 10月 | 北海道選別センター稼働開始 |
| | 12月 | 中部リサイクル工場稼働開始 |
| | 12月 | 中部PETリサイクル工場稼働開始 |

環境・リサイクル

| | | |
|------|-----|--|
| 1990 | 9月 | エフピコ方式のリサイクルスタート |
| | 12月 | 笠岡リサイクルセンター稼働開始 |
| 1991 | | 関東リサイクルセンター稼働開始 |
| | 10月 | 東北リサイクルセンター稼働開始 |
| | | エコトレーが業界初のエコマーク認定 |
| 1992 | 3月 | エコトレー販売開始 |
| | 4月 | 環境対策室設置 |
| | 5月 | 中部リサイクルセンター稼働開始 |
| | 7月 | 鳥取市が当社と協決して自治体で初めてトレー回収を開始 |
| | 9月 | 九州リサイクルセンター稼働開始 |
| | 10月 | 学校回収スタート、社内のトレー回収スタート |
| 1993 | 2月 | 福山リサイクルセンター稼働開始 |
| | 12月 | 沖縄減容工場稼働開始 |
| 1996 | 2月 | 北海道リサイクルセンター稼働開始 |
| | 8月 | エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得 |
| 1998 | 11月 | 沼津リサイクルセンター稼働開始 |
| | 4月 | 関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入 |
| 1999 | 7月 | 工場見学者累計10万人突破 |
| | 8月 | 福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入 |
| 1999 | 4月 | 主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得 |
| | 5月 | エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号) |
| 2000 | 10月 | 各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更 |
| | 11月 | 関東リサイクル第1工場稼働開始 旧工場を関東リサイクル第2工場に改称 |
| 2001 | 5月 | 東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖 |
| | 9月 | 福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設 |
| 2003 | 2月 | 関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得 |
| | 3月 | 岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定 |
| | 4月 | 関東リサイクル第1、第2 工場を集約 関東リサイクル工場に改称 |
| | 5月 | 佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 |
| 2004 | 6月 | 岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 |
| | 10月 | 宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定 |
| | 11月 | 工場見学者 累計20万人突破 |
| | 3月 | 広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録 |
| | 12月 | 「トレー to トレー」が第20類&第40類で商標登録(第4322974号) |
| | 4月 | CO ₂ マネジメント委員会設置 |
| 2005 | 5月 | 「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号) |
| | 11月 | 笠岡工場ISO9001 認証取得 |
| 2006 | 3月 | 関東下館工場ISO9001 認証取得 |
| | 4月 | 近畿亀岡工場ISO9001 認証取得 |
| 2007 | 4月 | 環境経営5 ヵ年計画スタート |
| | 10月 | 屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場) |
| | 12月 | 太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始 |
| 2008 | 8月 | 茨城選別センターを稼働開始 |
| | 10月 | 西宮選別センター、岐阜選別センターを稼働開始 福山選別センターを稼働開始 |
| 2009 | 1月 | (株)金沢容器リサイクルを稼働開始 |
| | 8月 | 佐賀選別センター稼働開始 |
| 2010 | 9月 | 福山リサイクル工場に新洗浄ラインを導入 |
| | 4月 | 東海選別センター稼働開始 |
| | 8月 | 関東リサイクル工場に新洗浄ライン導入 |
| | 9月 | 九州選別センター稼働開始 |

環境関連法規制・食の安全

| | | |
|------|-----|---|
| 1990 | 8月 | IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が地球温暖化を警告 |
| | 10月 | 「資源の有効な利用の促進に関する法律(通称:リサイクル法)」施行 |
| 1992 | 6月 | リオデジャネイロで第1回地球サミット開催 |
| | 2月 | 国連が「持続可能な開発委員会」を発足 |
| 1993 | 1月 | 「環境基本法」施行 |
| | 7月 | 「製造物責任法(PL法)」施行 |
| 1995 | 4月 | 「容器包装リサイクル法」施行(ペットボトル、ガラス) |
| | 12月 | COP3(第3回気候変動枠組み条約締結国会議)が京都で開催 「京都議定書」採択 |
| 1999 | 7月 | 官報(号外第143号) 容器包装リサイクル法にて当社のリサイクル及び「トレー to トレー」の再商品化が明文化される。 |
| | 1月 | 「ダイオキシン類対策特別措置法」施行 |
| 2000 | 4月 | 「容器包装リサイクル法」の全面実施(その他紙及びその他プラが追加) |
| | 5月 | 0-157 発生 |
| 2001 | 6月 | 「循環型社会形成推進基本法」施行 |
| | 4月 | 「グリーン購入法」施行 |
| 2001 | 4月 | 「家電リサイクル法」施行 |
| | 5月 | 「食品リサイクル法」施行 |
| 2001 | 9月 | BSE 発生 |
| | 4月 | 「PRTR法」施行 |
| 2002 | 4月 | 「建設資材リサイクル法」施行 |
| | 2月 | 「土壌汚染対策法」施行 |
| 2003 | 4月 | 「改正省エネ法」施行 |
| | 6月 | 「食品安全基本法」施行 |
| 2004 | 7月 | 食品安全基本法施行に伴ない内閣府に食品安全委員会設置 |
| | 1月 | 鳥インフルエンザ発生 |
| 2005 | 1月 | 「自動車リサイクル法」施行 |
| | 2月 | 「京都議定書」発効 |
| 2006 | 4月 | 「改正省エネ法」施行 |
| | 4月 | 「改正温対法」施行 |
| 2007 | 4月 | 「改正容器包装リサイクル法」施行 |
| | 12月 | 「改正食品リサイクル法」施行 |
| 2008 | 1月 | 中国毒入り餃子事件 |
| | 7月 | G8北海道洞爺湖サミット 「低炭素社会づくり行動計画」策定 |
| 2009 | 5月 | カーボンフットプリント算定・表示試行事業のスタート |
| | 6月 | WHO、新型インフルエンザの世界的流行病(パンデミック)宣言 |
| | 9月 | 鳩山首相、温暖化ガス「2020年25%削減」を表明 |
| 2010 | 12月 | COP15(第15回気候変動枠組み条約締結国会議) |
| | 3月 | 温暖化対策基本法、国会提出 |
| 2010 | 4月 | 改正省エネ法、改正温対法の施行 |
| | 11月 | ISO26000発行 COP16「第16回気候変動枠組み条約締結国会議」 |

東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に深くお悔み申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

エフピコグループでは、2011年3月11日の東日本大震災で被災された方々の救援や被災地の復興にお役立ていただくため、以下を提供しました。

- 義援金1千5百万円(経済団体連合会を通じて)
- エフピコ友愛会(社員親睦会)より義援金3百万円(福山市役所を通じて)
- 食品容器や食品トレー 25万食分の生活救援物資

今後も継続して当社グループから提供可能なあらゆる支援を検討してまいります。

● 編集後記 ●

2011年3月11日、未曾有の大地震とそれに伴う大津波が東北と関東地方を襲いました。戦後最大といわれるこの災害を目の当たりにし、われわれ人間がいかに無力であるかを思い知らされた気がします。この文章を書いている3月下旬の時点でも、まだ多くの方々が被災地で不自由な生活を強いられています。弊社としても義援金の寄付や避難所で食事をするための容器の提供など、微力ながら被災者の方々へ救援の手を差し伸べさせていただきました。

今回の災害はわれわれから多くを奪いましたが、同時にたくさんの教訓も得られました。原発事故により関東地方でも計画停電が実施され、ライフラインに不自由する生活を初めて味わった若い世代もいるでしょう。当たり前のことが当たり前でなくなった時、わたしたちは当たり前前に生きていることに対する感謝の念を改めて抱くものです。

被災された方々の一日も早い復興を願わずにいられません。

2011年6月

環境対策室 松尾和則

「CSR Report 2011」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございました。今後も皆さまのご意見を参考に継続的な改善を図っていきたくと思います。つきましては、当レポートに添えてありますアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

CSR Report 2011

発行日：2011年6月

●制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号

新宿オークタワー(総合受付36階)

TEL 03-5325-7800

FAX 03-5325-7811

E-mail : EcoTray-FP@fpco-net.co.jp

ホームページ : <http://www.fpco.jp/>



CSR Report 2011

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.



株式会社エフピコ

- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号 TEL(084)953-1145
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F TEL(03)5320-0717
- 大阪支店 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町1-1-8 第一火災千里中央ビル6F TEL(06)6835-5370
- 営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

ホームページ <http://www.fpco.jp/>

eメール EcoTray-FP@fpco-net.co.jp

